

共通教育

「学生による授業評価」ならびに
「教員のFD活動レポート」

報告書

平成17年度(後学期)



平成18年9月

宮崎大学

共通教育「学生による授業評価」ならびに 「教員のFD活動レポート」報告書の刊行にあたって

本学は、中期目標・中期計画において教育の成果に関する目標を設定し、成果・効果の点検・評価を実施してきており、共通教育に関しても平成16年度から「学生による授業評価」ならびに「教員のFD活動レポート」をアンケートにより毎学期末に実施し、17年度前期分まで、逐次、報告書として公表してきた。

本報告書はこれらに続くものであり、平成17年度後学期の「学生による授業評価」ならびに「教員のFD活動レポート」の結果をとりまとめたものである。

本報告書における質問項目は、これまでの報告書の場合と同じである。しかし、結果の分析では、以下の内容を新たに追加した。

- 1) 全科目平均の動向については、16年度前学期から17年度後学期までの2年間にわたる全学期について分析した。
- 2) 科目群平均の動向については、16年度と17年度の後学期間の比較を行った。
- 3) 17年度前学期分までは、分析は科目群単位にとどめていたが、本報告書では同一科目群内の科目間についても比較検討した。
- 4) 科目毎のデータ一覧において、選択教養科目についても科目群毎に各科目のデータを示した。

教育の成果に関する自己点検・評価及び本報告書で取り上げた調査項目や分析内容は、本学が平成19年度に受審予定の大学機関別認証評価に関する観点や留意点として取り上げられているものである。本報告書が各教員の授業改善やFD活動に存分に活用され、共通教育の更なる充実・発展につながるよう切望する。

最後に授業評価及びFDレポートにご協力いただいたことに対し、担当教員各位に深く御礼申し上げます。

平成18年9月

共通教育部自己点検・評価委員会

委員長 甲斐 重貴

目 次

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート	1
第2章 学生による授業評価	5
【1】全科目の平均について	5
【1-1】全科目平均の動向	6
【2】科目群ごとの分析	8
【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較	8
【2-2】平均の動向(前年同学期との比較)	10
【2-3】科目単位でみた評価	13
第3章 教員によるFD活動レポート	21
【1】学生による評価と教員の自己評価の比較	21
【2】教員のFDレポート	23
【2-1】英語及びコミュニケーション英語	24
【2-2】初修外国語	27
【2-3】健康スポーツ科学	28
【2-4】主題教養科目	29
【2-5】選択教養科目・専門基礎科目	32
第4章 科目ごとのデータ一覧	34
第5章 本調査の今後の課題	45
「共通教育部自己点検・評価委員会」委員名簿	

第1章 実施の記録・調査票・結果報告書・FD活動レポート

平成17年度後学期の共通教育科目についての「学生による授業評価」は次のように実施された。

実施時期	平成18年(2006年)1月10日(火)～1月27日(金)の授業期間中。
対象科目	すべての共通教育科目(211科目)。
実施方法	実務は学務部教務課と大学教育研究企画センター(武方壮一助教授)が担当し、各科目の登録学生数に応じた枚数の調査票をあらかじめ用意し各教員に配布した。各教員は授業時間内に学生に調査票を配布して調査を実施し、ただちに回収した。その後、大学教育研究企画センター(同上)が集計作業を行った。
回収率	89%(211科目中、187科目を回収した。)
返却	各教員へは調査票の現物とともに「結果報告書」が返却された。
報告	すべての科目の集計結果が共通教育部自己点検・評価委員会に報告された。本報告書は当該報告に基づき同委員会が作成した。
FD活動レポート	FD活動レポートは、所定の用紙を各教員に配布し、記入の後、学生用調査票とともに提出してもらった。 提出率は85%(211科目中、180科目分のFD活動レポートが提出された。)

※調査票・結果報告書・FD活動レポートの現物を以下に掲載した。なお、実際には、「科目コード」「授業科目」「担当教員」の〇〇の部分にデータがあらかじめ記入されている。

※平成18年度前学期の授業評価は平成18年7月に実施され、240科目中230科目を回収した。(回収率96%)。FD活動レポートは240科目中203科目分が提出された。(提出率85%)。

現在、データを集計・入力中であり、近日中に報告書としてまとめられる予定である。

「学生による授業評価」調査票(共通教育)

共通教育部自己点検・評価委員会

記入にあたっては、真剣に、かつ、率直な評価をしてください。この調査を教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ります。なお、この調査とあなたの成績とは一切関係ありません。

科目コード: ○ ○ ○ 授業科目: ○ ○ ○

担当教員: ○ ○ ○

達成目標: ○○○○することを通して○○○できるようになる。

I. 質問項目:

A: 受講・勉学態度等に関して

- 1 私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。
- 2 私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
予習や復習/重要事項の書き留め/課題の提出/授業内・外での教師への質問(オフィスアワーの活用)、等
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B: 担当教員の教授技法や授業内容等に関して

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C: その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。
教室の照明/空調/机・椅子などの備品の状態、等

D: 総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。

II. 回答欄:

所属等: 学籍番号のはじめの4ケタを記入してください。

次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④~①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる ③:ややあてはまる ②:あまりあてはまらない ①:あてはまらない

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
B	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
C	9	④	③	②	①	
	10	④	③	②	①	
D	11	④	③	②	①	
	12	④	③	②	①	

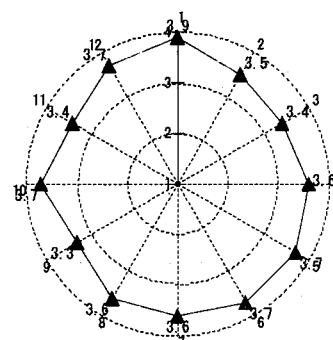
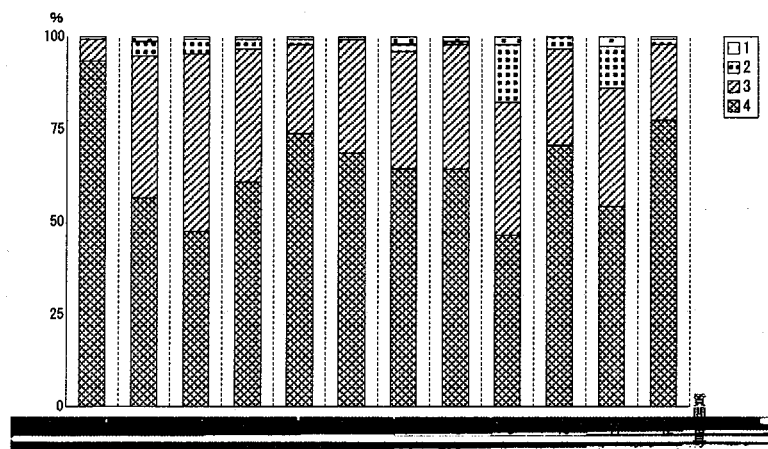
III. その他、この授業について、よかったこと、改善を求めたいこと、等の意見や感想を自由に述べてください。

「学生による授業評価」の結果報告書

科目コード	〇 〇 〇	科目区分	共通教育		
授業科目	〇 〇 〇				
担当教官	〇 〇 〇	実施時期	平成17年度 後学期	回答者数	150

I. 集計結果

No.	質問項目	4	3	2	1	合計
1	私(回答者自身)は75%以上授業に出席した。	139	9		1	149
2	私(回答者自身)は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。	85	58	6	2	151
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	71	72	6	1	150
4	授業はシラバスに沿って行われた。	91	54	4	1	150
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	109	36	2	1	148
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	102	46		1	149
7	重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	97	48	3	3	151
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	95	50	1	2	148
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	68	53	23	3	147
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。	105	39	5		149
11	学習環境は適切だった。	81	48	17	4	150
12	この授業は満足できるものだった。	113	30	2	1	146
		1156	543	69	20	1788



II. 受講生の授業評価を受けて、分かったこと、感想、改善すべきことなど
回答用紙で確認ください。

この調査は教員の授業改善につなげ、共通教育の充実を図ることを目的としています。記入にあたっては、各授業科目毎に率直に自分の授業を点検してください。

科目コード: ○ ○ ○ 授業科目: ○ ○ ○

担当教員: ○ ○ ○

I. 質問項目:

回答者名: ()

A: 授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検してください。

- 1 シラバスに沿って授業を行えた。
- 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
- 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。
- 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
- 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
- 6 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
- 7 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。
- 8 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

B: FD活動についてお尋ねします。

- 9 この授業科目に関してこの1年間取り組んだFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他
- 10 今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。（複数回答可）
①他教員の授業参観 ②学内外のFD講演会等への参加 ③他大学のFD活動の視察 ④その他

注: 学内外のFD講演会等への参加、他大学のFD活動の視察及びその他予算措置の必要な企画については予算措置が講じられます。別途ご案内します。

II. 回答欄:

1～8について: 次の4段階評価に従って、最も適切な数字(④～①)を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

④:あてはまる ③:ややあてはまる ②:あまりあてはまらない ①:あてはまらない

9～10について: 質問に対応する適切な数字を選んで、該当する丸数字を黒く塗りつぶしてください。

		マーク欄				自由記述欄(左の項目に関連した意見や感想)
A	1	④	③	②	①	
	2	④	③	②	①	
	3	④	③	②	①	
	4	④	③	②	①	
	5	④	③	②	①	
	6	④	③	②	①	
	7	④	③	②	①	
	8	④	③	②	①	
B	9	①	②	③	④	④の場合具体的に:
	10	①	②	③	④	④の場合具体的に:

III. 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

第2章 学生による授業評価

【1】全科目の平均について

すべての共通教育科目(全211科目のうち回収された187科目)について、質問項目ごとに評価点の平均を計算すると次の通りである(小数第2位以下は四捨五入)。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全科目の平均	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5

評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階で行われている。

上の表をグラフにすると右の通りである。横軸は質問項目を、縦軸は評価点の平均を示している。

質問は以下の12項目である。

A:回答者(学生)自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

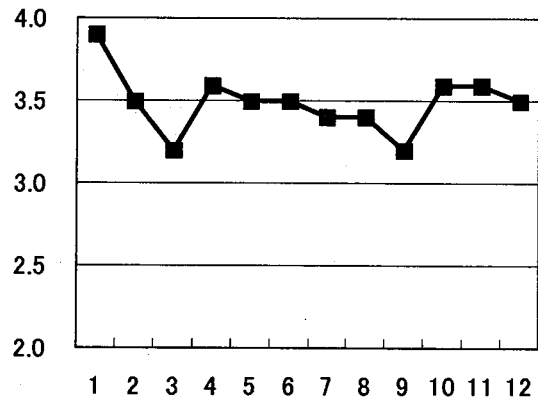
- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

- 12 この授業は満足できるものだった。



(※縦軸の評価2未満の部分は省略した。)

【1-1】全科目平均の動向

16年度からの各学期において、これまで、すべての科目を対象に学生による授業評価が実施されている。そこで、この2年間にどれほどの改善がなされたかをみるために、評価点の平均の動向を整理したものが下の図表である(注:16年度は質問3と質問10は設けていなかったの、下表では空欄にしてあるとともに、下図では割愛している)。

質問項目	学生自身			教員の教え方など						学習環境		総合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
16年度前学期	3.9	3.4		3.5	3.2	3.2	3.1	3.1	2.9		3.4	3.2
16年度後学期	3.9	3.4		3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.0		3.5	3.3
17年度前学期	3.9	3.4	3.0	3.5	3.3	3.3	3.2	3.1	3.0	3.5	3.5	3.3
17年度後学期	3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5

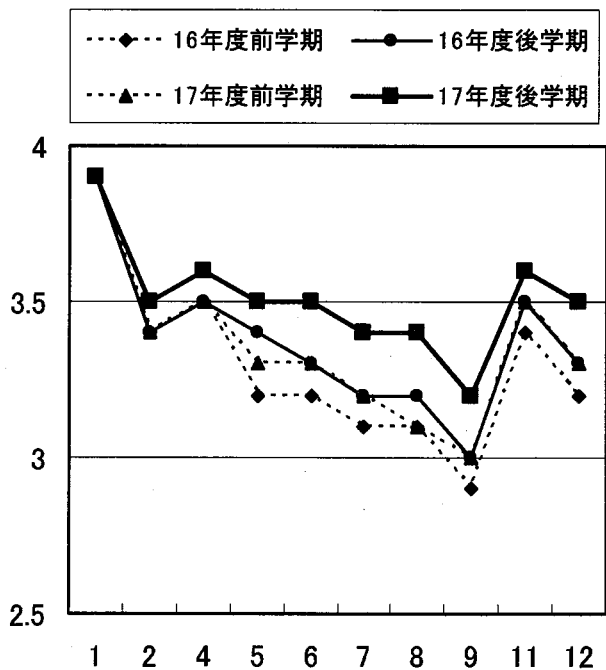
○前年同学期との比較

まず、今回の結果と前年同学期(16年度後学期)とを比較すると、評価が下がった項目は無く、ほぼすべての項目(10項目中9項目)において学生の評価が上がっている(右図の一番上の実線(17年度後学期)とその下の実線(16年度後学期)に注目されたい)。

具体的には、「教員の教え方など」に関する6つの質問のうち4項目(質問6～9)において0.2ポイント上昇していることが注目される。教員自身、話し方や板書の仕方等、改善・工夫を行っており、このことが学生にも評価されてきていることが窺えよう。

また、「学生自身」の受講態度に関わる質問2、「学習環境」(空調の整備など)に関わる質問11も0.1ポイント上昇している。

さらに、「総合的な授業評価」である学生の満足度(質問12)も0.2ポイント上昇していることは注目したい。



○2年間の動向

前学期と後学期とでは授業科目や担当教員が異なるため、単純には比較できないが、法人化直後の16年度前学期と今回(17年度後学期)の結果を比較すると、やはり、ほぼすべての項目において評価が上がっている。

特に、「教員の教え方など」に関する項目のうちで、評価があまり高くなかった5項目(質問5～9)についてみると、16年度前学期は2.9～3.2の評価点(平均)であったのに対し、今回は3.2～3.5となっている。そして、学生の満足度(質問12)も、16年度前学期(3.2)と比べて0.3ポイント上昇している。

他方、質問9(「予習・復習や発展学習を課した」)の評価点は、上述したように上がってはいるものの、3.2にとどまっており、依然として質問項目のなかで一番低い。このことから、自学自習促進のための指導に関しては、科目ごとの必要性の有無や具体的方法の検討と併せて、改善の余地があると思われる。

なお、同学期間の年次別比較では、17年度は16年度より評価が上がっているが、他方、学期別にみると、前学期は後学期に比べて全体的に低い評価になっている。これは、授業科目(の性質)や担当教員の違いが影響しているものと思われるが、この具体的な原因や次年度以降の動向については、18年度前学期の結果も踏まえて今後、さらに検証してゆく必要がある。

以上の結果を改めて整理すると、以下の通りである。

- 全体的にみると、この2年間で、共通教育への学生の評価は上がっている。
- これは、「教え方」など教員自身の改善・工夫によるところが大きいと考えられる。
- 従って、共通教育のFD活動は着実に成果を挙げつつあるといえるが、自学自習促進のための指導など、検討・改善の余地がある。
- また、学期間の違いや次年度以降の動向は、今後、さらに検証すべきである。

【2】科目群ごとの分析

【2-1】科目群ごとの平均、および全体との比較

共通教育科目を16の科目群に分類した場合の評価点の平均は次の通りである。なお、かっこ内の科目数は開講科目数ではなく、授業評価が提出された科目数である。

太字の値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上高いことを、他方、網掛けの値は「全科目平均」と比べて0.2ポイント以上低いことを示している(±0.1ポイント以内は、そのままにしてある)。

質問項目		学生自身			教員の教え方など					学習環境		総合	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11
全科目平均		3.9	3.5	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.6	3.6	3.5
大学 教育 基礎 科目	(1)英語(29科目)	3.9	3.5	3.1	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3	3.7	3.6	3.5
	(2)コミュニケーション英語(26科目)	3.9	3.5	3.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.7	3.6	3.5
	(3)初修外国語(30科目)	3.9	3.4	3.0	3.6	3.4	3.3	3.3	3.2	3.3	3.6	3.6	3.4
	(4)保健体育科目(24科目)	4.0	3.8	3.6	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.1	3.7	3.6	3.8
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理(5科目)	3.9	3.4	3.1	3.7	3.3	3.4	3.3	3.3	2.9	3.4	3.4	3.4
	(6)人間と文化(11科目)	3.9	3.4	3.3	3.6	3.5	3.5	3.3	3.4	3.0	3.5	3.5	3.5
	(7)現代社会の課題(8科目)	3.8	3.3	3.1	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2	2.8	3.5	3.4	3.3
	(8)自然と生命(9科目)	3.9	3.3	2.9	3.3	3.0	3.1	2.9	2.9	2.7	3.3	3.3	2.9
選択 教養 科目	(9)文化・社会系(7科目)	3.8	3.5	3.2	3.6	3.6	3.4	3.4	3.4	2.9	3.5	3.5	3.5
	(10)科学・技術系(9科目)	3.8	3.2	3.0	3.6	3.3	3.3	3.2	3.1	2.8	3.5	3.7	3.4
	(11)生命科学系(3科目)	3.8	3.5	3.1	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	2.4	3.1	3.5	3.6
	(12)複合・学際系(5科目)	3.9	3.4	3.2	3.7	3.6	3.6	3.5	3.4	2.8	3.6	3.6	3.5
	(13)生涯学習系(5科目)	3.9	3.6	3.5	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.1	3.7	3.6	3.7
	(14)外国語系(5科目)	4.0	3.6	3.4	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.3	3.5	3.7	3.4
(15)日本語科目(5科目)	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
(16)専門基礎科目(6科目)	3.9	3.4	3.2	3.7	3.3	3.4	3.3	3.3	3.3	3.7	3.7	3.4	

科目群ごとに全体(全科目平均)と比較すると、次の通りである(前頁表を参照)。

1)大学教育基礎科目

- ・ 「英語」は、平均で見れば、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「コミュニケーション英語」も、全科目平均と同程度に近いが、質問3(学生の到達度)は全科目平均より0.2ポイント低い。
- ・ 「初修外国語」は、「学生の到達度」と、質問6(話し方、板書の仕方等)、質問8(意欲や好奇心を満足させる教え方)の3項目において、全科目平均より0.2ポイント低い。
- ・ 「保健体育科目」は、全体を通して高い評価を受けている。

2)主題教養科目

- ・ 「現代の社会と倫理」は、質問5(「理解度やレベルを踏まえた」)、質問9(「予習・復習や発展学習を課した」)、「学習環境」(質問10、11)において、全科目平均より0.2ポイント低い。
- ・ 「人間と文化」は、質問9を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「現代社会の課題」と「自然と生命」は、全科目平均より低い項目が多い。特に「自然と生命」は、質問1(学生が75%以上出席)を除いて、全て0.2ポイント以上低い。

3)選択教養科目

- ・ 「文化・社会系」、「生命科学系」、「複合・学際系」は、質問9等を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。
- ・ 「科学・技術系」は、「学生自身」および「教員の教え方など」におけるほとんどの項目が、全科目平均より0.2ポイント以上低い。
- ・ 「生涯学習系」と「外国語系」は、「学生の到達度」と「教員の教え方」等の項目を中心に、全科目平均より高い評価を受けている。

4)日本語科目、専門基礎科目

- ・ 「日本語科目」は、受講生が1～4名という限定されたなかでの評価であるが、ほぼ「満点」に近い評価となっている。
- ・ 「専門基礎科目」は、質問5を除いて、全科目平均とほぼ同程度の評価である。

平均で見れば、「保健体育科目」、「生涯学習系」、「外国語系」は全体より高い評価の項目が、他方、「現代社会の課題」、「自然と生命」、「科学・技術系」は全体より低い評価の項目が多くなっている。

【2-2】平均の動向(前年同学期との比較)

次に、科目群ごとの平均を、前年(平成16年度)後学期と比較していこう。ただし、質問3と質問10は今年度(平成17年度)から加わった項目なので省略する。また、「日本語科目」は16年度のデータが無いので割愛する。

なお、同学期どうしであっても各群ともに開講科目とその数に若干の増減があるので、必ずしも厳密な比較になり得ないことは申し添えておきたい。

以下、評価が上がった項目には★を、下がった項目には▽をつける。

①大学教育基礎科目

質問項目		学生自身		教員の教え方など						環境	総合	
		1	2	4	5	6	7	8	9	11	12	
大学 教育 基礎 科目	(1) 英語	16後	3.9	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.2	3.6	3.3
		17後		★	★	★	★	★	★	★		★
	(2) コミュニケーション英語	16後	3.9	3.4	3.5	3.4	3.4	3.3	3.2	3.4	3.6	3.4
		17後		★	★	★	★	★	★			★
	(3) 初修外国語	16後	3.9	3.4	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.6	3.2
		17後			★	★	★	★	★	★		★
	(4) 保健体育科目	16後	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.6	3.1	3.6	3.8
		17後	★		★			★	★			
		4.0	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.1	3.6	3.8	

かなりの項目において評価が上がっているが、「英語」、「コミュニケーション英語」、「初修外国語」に関して、教員の教え方(質問4～9)のほぼ全ての項目と質問12(「総合的に評価して満足できる授業だった」)について評価が上がっていることは特筆される。また、評価が下がっている項目はみられない。なお、保健体育科目について評価が上がっている項目は4つにとどまっているが、いわば「上げ止まり」の状態にまで達しているといえよう。

大学教育基礎科目の評価は、「教員の教え方」を中心にほとんどの項目において上がっている。

②主題教養科目

質問項目		学生自身		教員の教え方など						環境	総合	
		1	2	4	5	6	7	8	9	11	12	
主題 教養 科目	(5)現代の社会と倫理	16後	3.9	3.3	3.5	2.9	3.0	2.8	2.9	2.7	3.3	3.0
		17後		★	★	★	★	★	★	★	★	★
	(6)人間と文化	16後	3.9	3.4	3.7	3.3	3.4	3.3	3.3	2.9	3.4	3.4
		17後		★	★	★	★	★	★	★	★	★
	(7)現代社会の課題	16後	3.9	3.3	3.3	3.4	3.3	3.2	3.2	2.7	3.2	3.4
		17後		★	★	★	★	★	★	★	★	★
	(8)自然と生命	16後	3.9	3.3	3.6	3.4	3.3	3.2	3.1	2.6	3.5	3.3
		17後	▽		▽			★	★	★	▽	
		16後	3.8	3.3	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2	2.8	3.4	3.3
		17後	3.9	3.1	3.4	2.8	2.9	2.8	2.7	2.5	3.3	2.8
	16後		★	▽	★	★	★	★	★		★	
	17後	3.9	3.3	3.3	3.0	3.1	2.9	2.9	2.7	3.3	2.9	

主題教養科目についても、特に「現代社会の倫理」、「人間と文化」、「自然と生命」において、教員の教え方や総合評価が概ね上昇していることが分かる。すなわち、「自然と生命」は、既にみたように全科目平均と比べれば評価点は低いものの、前年より明らかに改善しつつあるといえる。

他方、「現代社会の課題」は、質問1、4、11において前年より0.1ポイント低下しているものの、教員の教え方のうち3項目では評価が上がっている。

主題教養科目の評価も、概ね上がっている。

③選択教養科目・専門基礎科目

質問項目		学生自身		教員の教え方など						環境	総合	
		1	2	4	5	6	7	8	9	11	12	
選択 教養 科目	(9) 文化・社会系	16後	3.9	3.3	3.5	3.3	3.2	3.2	3.3	2.5	3.3	3.4
		17後	▽ 3.8	★ 3.5	★ 3.6	★ 3.6	★ 3.4	★ 3.4	★ 3.4	★ 2.9	★ 3.5	★ 3.5
	(10) 科学・技術系	16後	3.9	3.4	3.5	3.3	3.3	3.2	3.0	2.9	3.5	3.3
		17後	▽ 3.8	▽ 3.2	★ 3.6				★ 3.1	▽ 2.8	★ 3.7	★ 3.4
	(11) 生命科学系	16後	3.9	3.3	3.6	3.2	3.1	3.0	3.2	2.7	3.4	3.2
		17後	▽ 3.8	★ 3.5	▽ 3.5	★ 3.5	★ 3.4	★ 3.4	★ 3.4	▽ 2.4	★ 3.5	★ 3.6
	(12) 複合・学際系	16後	3.9	3.3	3.6	3.5	3.6	3.3	3.3	2.4	3.6	3.4
		17後		★ 3.9	★ 3.4	★ 3.7	★ 3.6		★ 3.6	★ 3.5	★ 3.4	
	(13) 生涯学習系	16後	3.9	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.6	3.0	3.6	3.6
		17後		★ 3.9	★ 3.6		★ 3.7	★ 3.7	★ 3.7	★ 3.6	★ 3.6	★ 3.1
	(14) 外国語系	16後	4.0	3.8	3.7	3.6	3.7	3.6	3.6	3.3	3.8	3.8
		17後		▽ 4.0	▽ 3.6	★ 3.6		★ 3.8	▽ 3.7		▽ 3.5	▽ 3.3
	(16) 専門基礎科目	16後	3.9	3.4	3.7	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.6	3.4
		17後				★ 3.9	★ 3.4	★ 3.7	★ 3.3	★ 3.3	★ 3.3	★ 3.7

「選択教養科目」や「専門基礎科目」についても、「教員の教え方」を中心に評価が上がっている項目が多いが、科目群ごとに違いがみられる。

質問4～12に着目すると、「文化・社会系」、「生命科学系」、「複合・学際系」、「生涯学習系」は8項目のうち過半数の項目において、評価が上がっている。他方、「科学・技術系」や「外国語系」は、「教員の教え方」の6項目のうち、上がっている項目は2つにとどまっているほか、逆に下がっている項目もある。

また、個々にみると、「生命科学系」の質問9が0.3ポイント、「外国語系」の質問12が0.4ポイント各々下がっているのが特徴的である。

ただし、前述したように、科目群により科目数の増減があるため、詳細な判断を行うには、科目ごとに具体的に検討する必要がある。

主として「文化・社会系」、「生命科学系」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「専門基礎科目」において評価が上がっている。

【2-3】科目単位でみた評価

平均値でみた科目群ごとの特徴は以上の通りであるが、当然ながら、同一科目群の中でも担当者により評価に違いがある。では、科目単位でみた場合、担当者の評価点はどのような分布をしており、また、その分布はどのような動向を示しているのか。

このことの整理に先立ち、学生の「総合満足度」を示す質問12と各項目との相関係数(単相関)を計算したものが下の表である。授業自体の「教え方」に関する項目との相関係数が特に高く、「わかりやすさ」を工夫したり「意欲・好奇心を掻き立てる教え方」をすることが学生の「総合満足度」の向上につながることが、改めて示唆される(各質問項目の内容は5頁を参照)。

「総合満足度」(質問12)と各項目との相関係数(平成17年度後期)

学生自身			教員の教え方など					
1	2	3	4	5	6	7	8	9
0.171	0.658	0.695	0.732	0.832	0.835	0.816	0.909	0.436
学習環境		複数項目の平均						
10	11	1-3平均	4-9平均	10-11平均	全項目平均			
0.481	0.405	0.681	0.874	0.488	0.894			

そこで以下、「総合満足度」(質問 12)と「教員の教え方」の平均値(質問4～9の平均値)の2指標に着目し、ここ2年間の動向を含めて整理してみよう。

図1～15は、科目群ごとに、横軸に「教員の教え方」の平均値を、縦軸に「総合満足度」をとり、各担当者の値をプロットしたものである。左欄の図(図 ○-a)が17年度後期、右欄の図(図 ○-b)が16年度後期である(ただし、①両指標ともに同じ値である担当者も存在し、これらは図示する際に点[マーカー]が重なるため、担当者数とマーカーの数は必ずしも一致していないこと、②図5と図8の目盛(最低値)の設定が他の図と異なることに留意。なお、「日本語科目」の図は割愛)。

また、これらの図の後に、17年度後期における両指標の度数分布表も示してある。

科目群により含まれる担当科目数に違いがあるため、科目群ごとの厳密な比較はできないが、以下の特徴が指摘されよう。

①17年度後期における分布

- ・ 「英語」、「保健体育科目」、「現代社会の課題」、「複合・学際系」、「生涯学習系」、「専門基礎科目」では、担当者間の評価のばらつきが比較的小さい。すなわち、概ね図の右上方に塊(かたまり)があり、ほぼ全ての担当者において両指標とも3.0以上の評価点となっている。
- ・ 他方、「コミュニケーション英語」、「初修外国語」、「現代の社会と倫理」、「人間と文化」、「自然と生命」、「文化・社会系」、「科学・技術系」は、担当者間の評価のばらつきが大きい。すなわち、評価の高い科目と余り高くない科目とが併存している。

- ・ 「初修外国語」について、後掲の度数分布表をもとにさらに細かくみると、独語や中国語に比べ、仏語において担当者間の評価のばらつきが大きい。

(なお、「生命科学系」は3科目のみのデータであること、「外国語系」は受講生の極めて少ない科目が含まれていることから、判断は差し控える。)

②前年度(16年度)後期との比較

- ・ まず特筆されるのは、ほとんどの科目群において、17年度と16年度が似通った分布傾向を示していることである。すなわち、科目群によって、ばらつきの大小や科目の偏り具合に特徴があり、興味深い。
- ・ 前述したように、ほとんどの科目群において評価の平均値が上がっているが、これには2つのパターンが推察される。1つは、授業科目の塊が右上方にシフトする、あるいは右上方に位置する科目が増加するパターン(評価の高い担当者が増加するパターン)であり、もう1つは、左下方に位置する授業科目が無くなる、あるいは減少するパターン(評価の低い担当者が減少するパターン)である。前者には「英語」、「コミュニケーション英語」、「初修外国語」、「人間と文化」、「現代社会の課題」、「複合・学際系」、「生涯学習系」が、後者には「現代の社会と倫理」、「自然と生命」、「文化・社会系」、「生命科学系」、「専門基礎科目」が概ね該当しよう。
- ・ 「科学・技術系」は平均値でみた場合、評価の上がっている項目が他群より少ないが、この原因として、担当者間のばらつきがむしろ大きくなっていることが読み取れる。
- ・ なお、クリアすべき評価点の目安を「ややあてはまる」の評点である3.0に置くならば、学生の「総合満足度」がこの基準に満たない授業科目は、16年度後期は全科目中28科目存在したのに対し、17年度後期は15科目におよそ半減した。このことは全体の「ボトムアップ」がなされている証として大いに評価できよう。但し、この17年度の15科目のうち11科目の担当教員が16年度にもついても該当することが、両年度のデータから確認された。従って、全体の「ボトムアップ」を一層図ってゆくためにも、個々の担当教員の工夫と努力による「レベルアップ」が強く望まれる。

【学生による授業評価結果のまとめ】

- ・ 過去2年間で「教員の教え方」を中心に学生の評価は上がっている。
- ・ 平均で見ると、全体より低い評価の科目群においても、概ね評価は改善しつつある。
- ・ 科目単位でみた評価のばらつきは、科目群によりそれぞれ特徴がある。また、担当者間で評価に差がみられるので、教員にはより一層の授業方法の検討および工夫・努力による「レベルアップ」が望まれる。

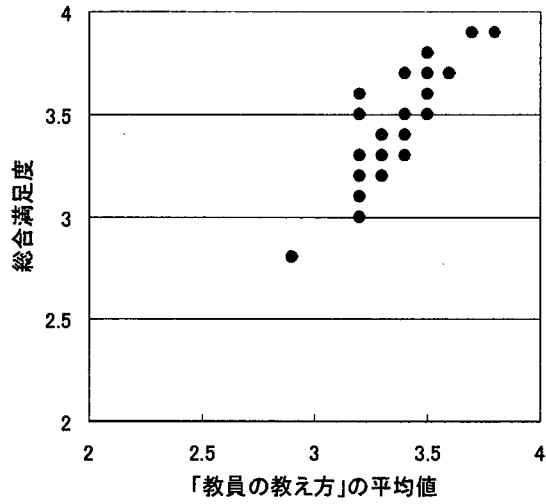


図1-a 英語(H17・後期)

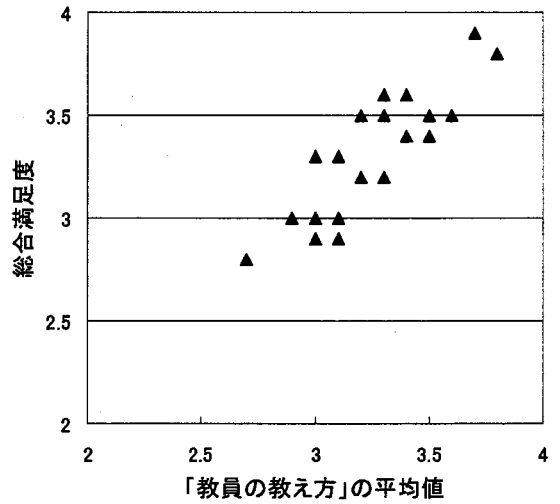


図1-b 英語(H16・後期)

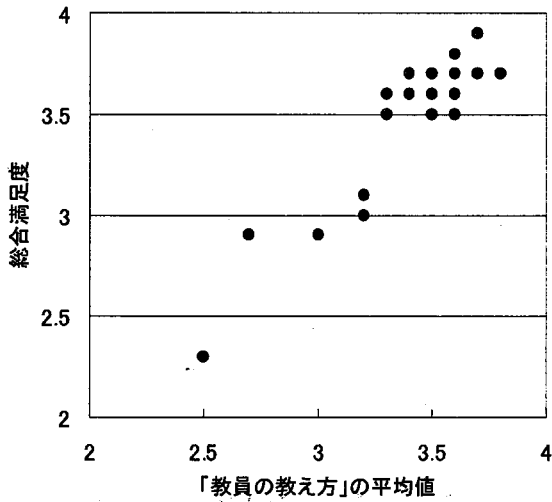


図2-a コミュニケーション英語(H17・後期)

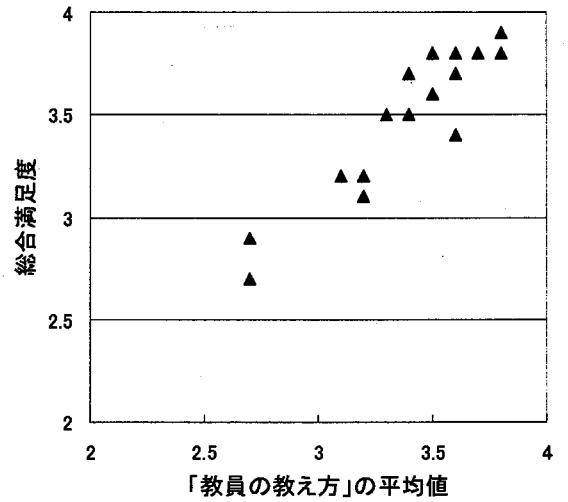


図2-b コミュニケーション英語(H16・後期)

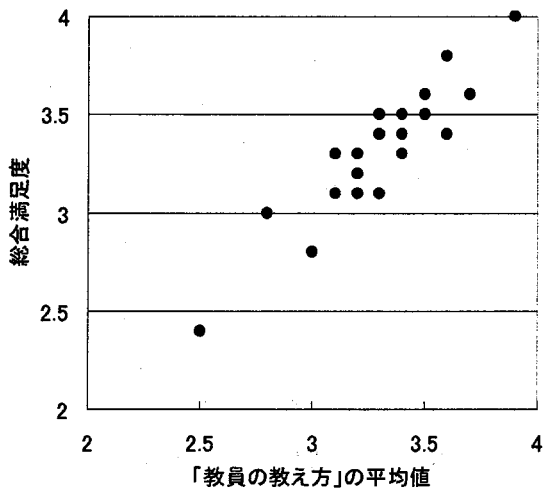


図3-a 初修外国語(H17・後期)

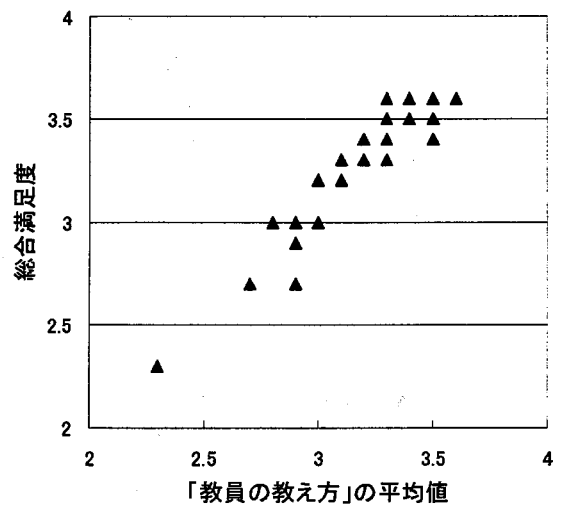


図3-b 初修外国語(H16・後期)

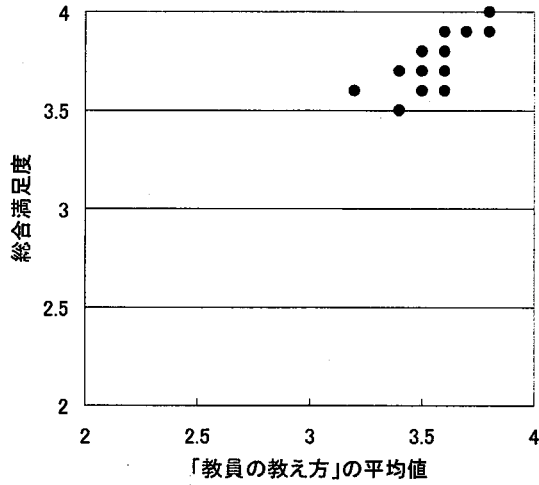


図4-a 保健体育科目(H17・後期)

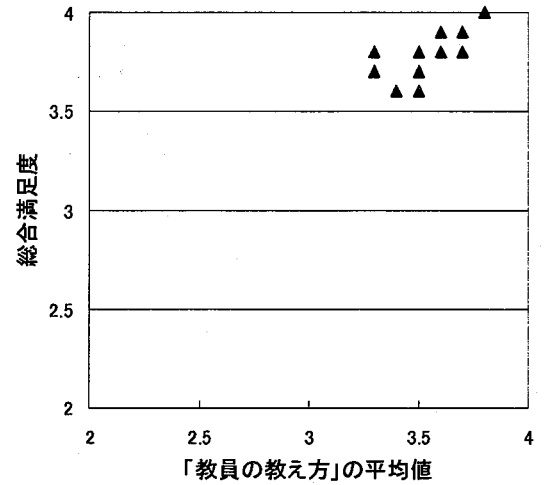


図4-b 保健体育科目(H16・後期)

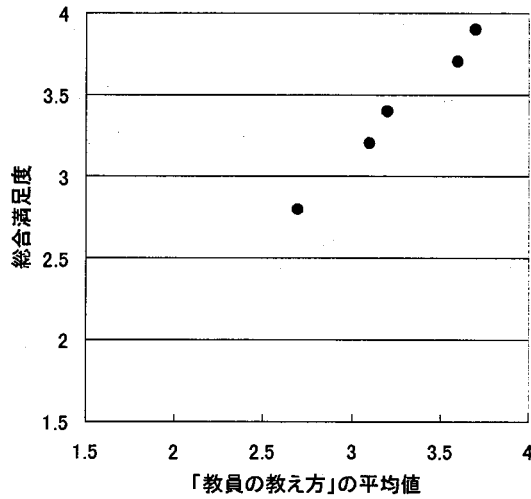


図5-a 現代の社会と倫理(H17・後期)

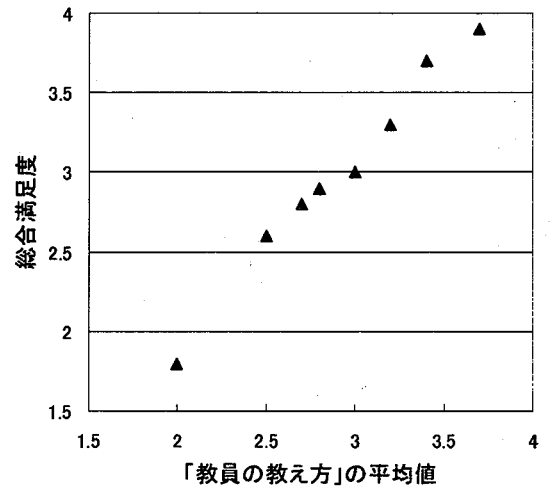


図5-b 現代の社会と倫理(H16・後期)

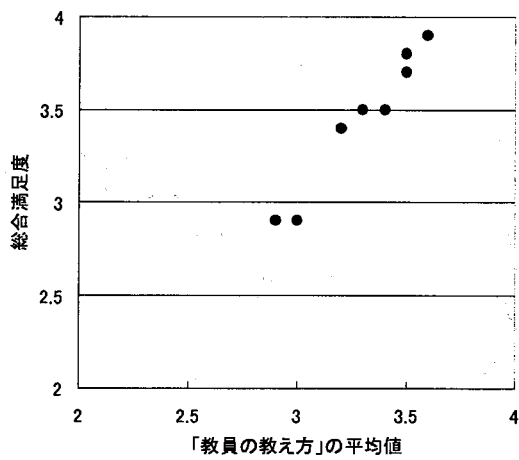


図6-a 人間と文化(H17・後期)

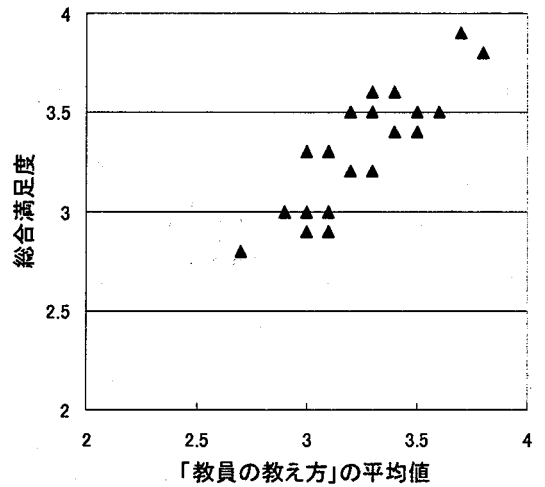


図6-b 人間と文化(H16・後期)

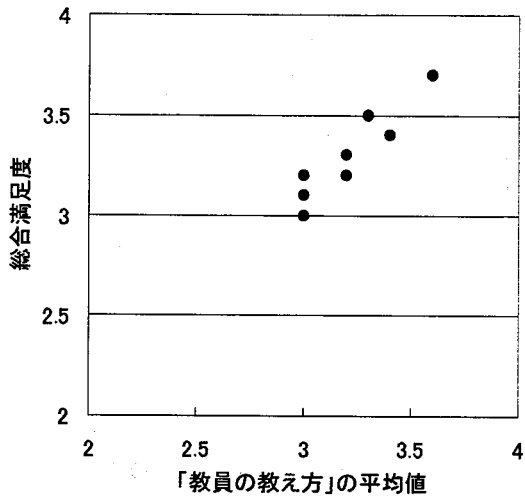


図7-a 現代社会の課題(H17・後期)

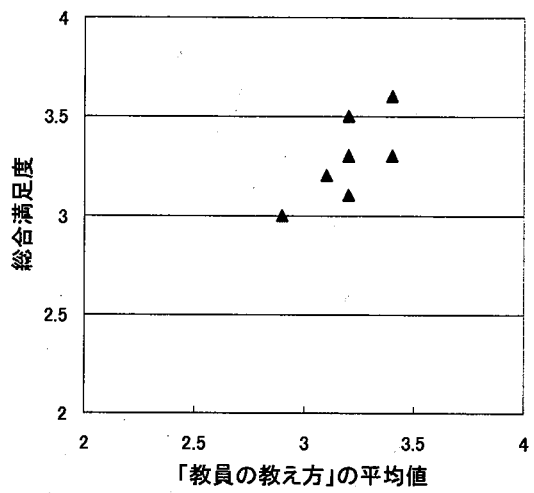


図7-b 現代社会の課題(H16・後期)

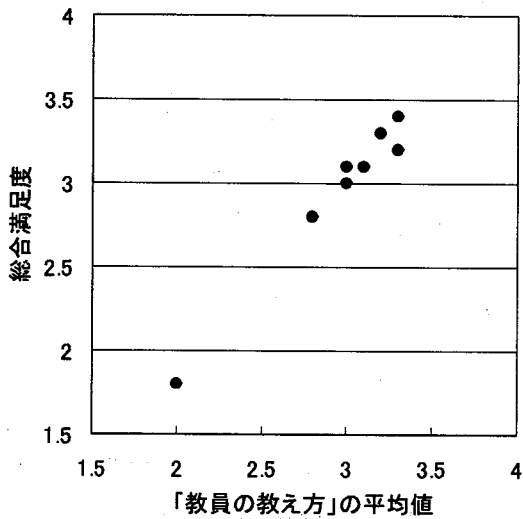


図8-a 自然と生命(H17・後期)

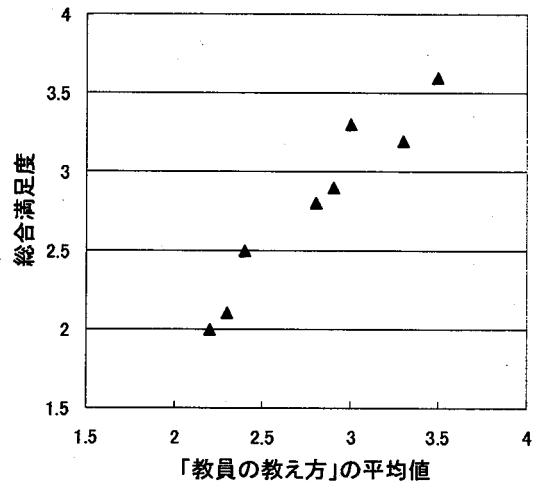


図8-b 自然と生命(H16・後期)

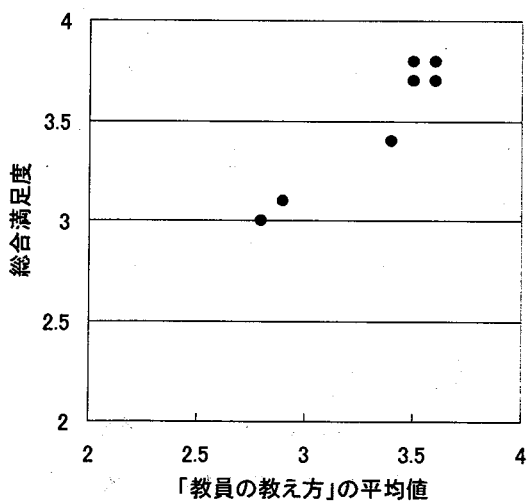


図9-a 文化・社会系(H17・後期)

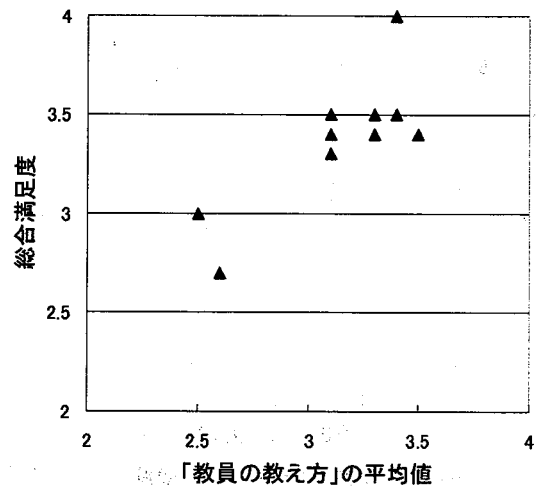


図9-b 文化・社会系(H16・後期)

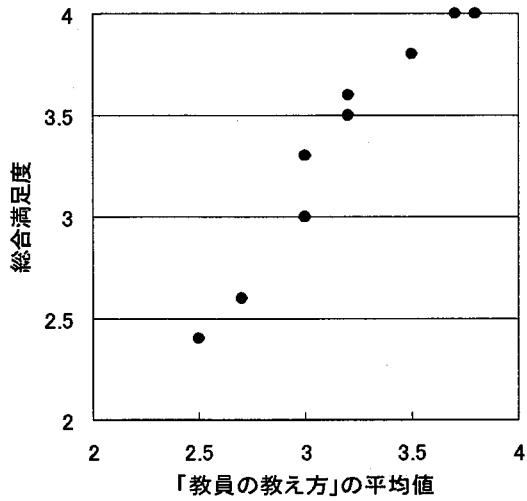


図10-a 科学・技術系(H17・後期)

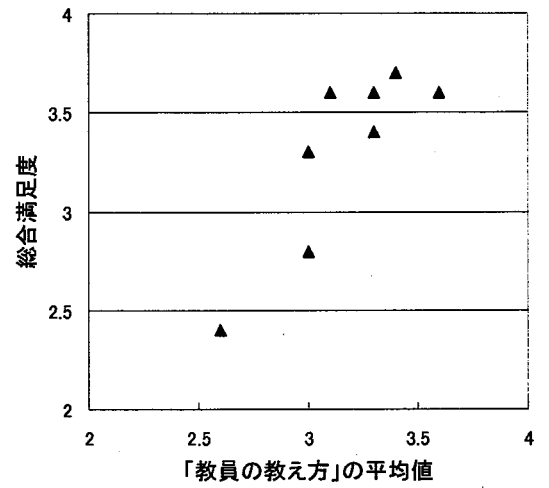


図10-b 科学・技術系(H16・後期)

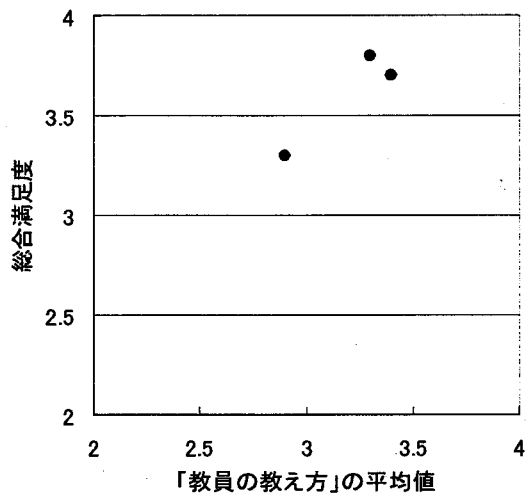


図11-a 生命科学系(H17・後期)

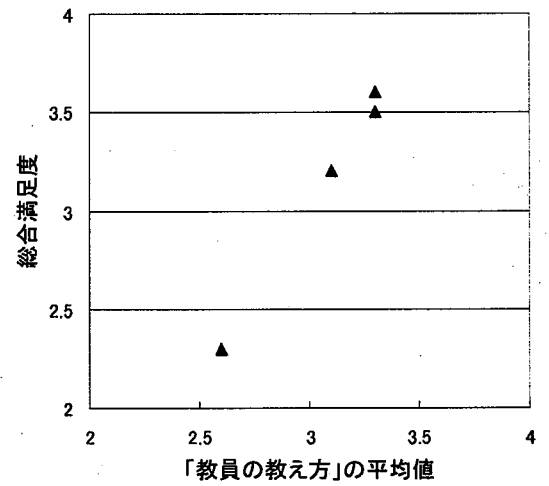


図11-b 生命科学系(H16・後期)

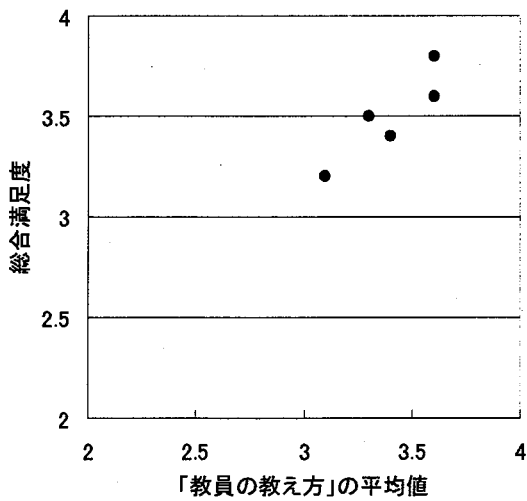


図12-a 複合・学際系(H17・後期)

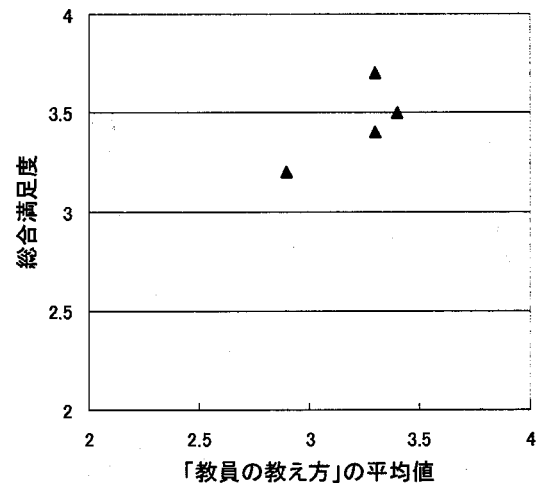


図12-b 複合・学際系(H16・後期)

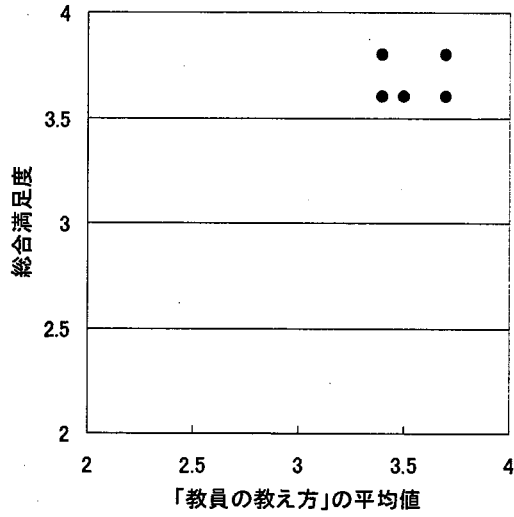


図13-a 生涯学習系(H17・後期)

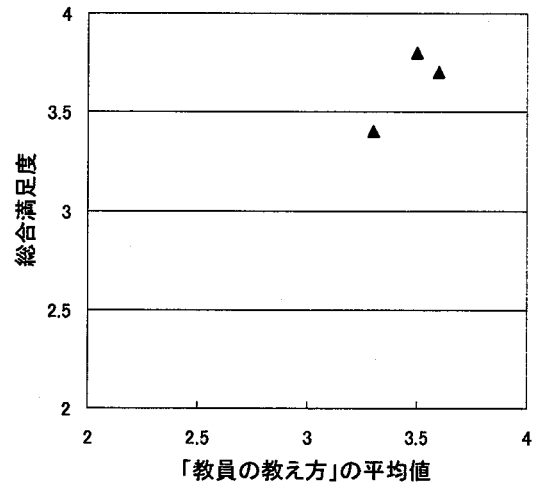


図13-b 生涯学習系(H16・後期)

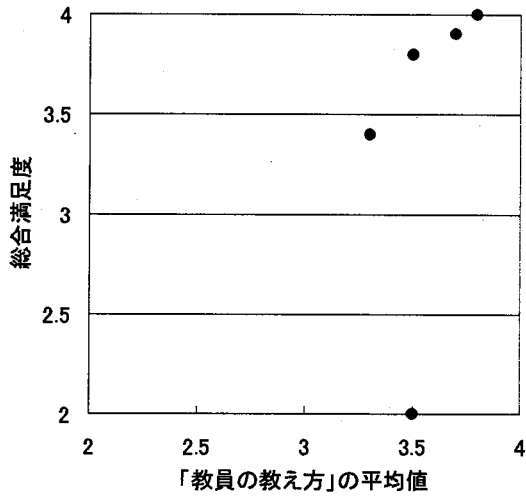


図14-a 外国語系(H17・後期)

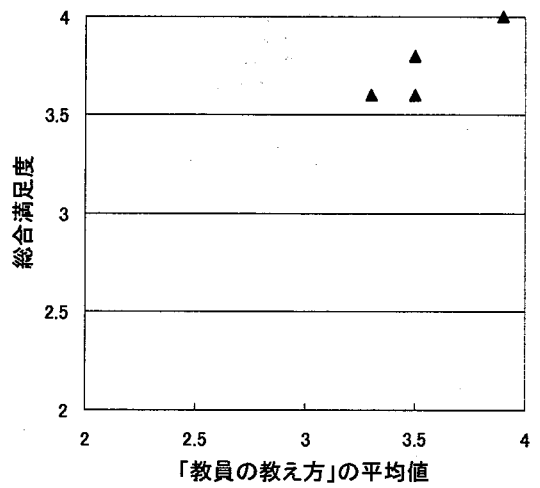


図14-b 外国語系(H16・後期)

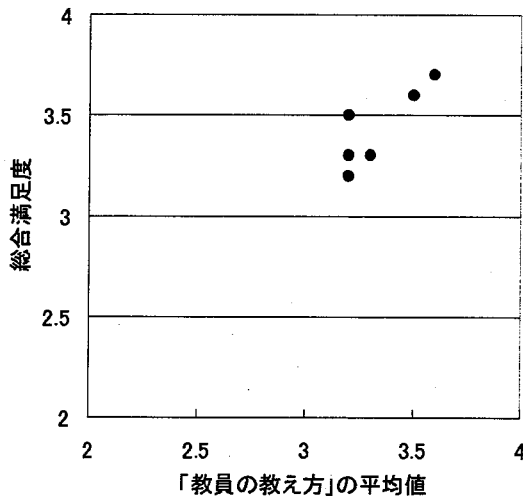


図15-a 専門基礎科目(H17・後期)

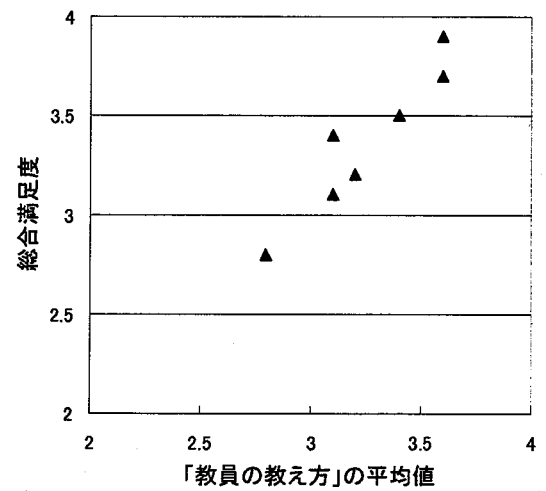


図15-b 専門基礎科目(H16・後期)

「教員の教え方」(質問4～9)の平均値の度数分布(該当科目数と割合;平成17年度後期)

(上段:科目数, 下段:割合)

「教員の教え方」の平均値	2.0	2.5	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	計
全体	1 0.5	3 1.6	3 1.6	4 2.1	4 2.1	10 5.3	6 3.2	26 13.9	17 9.1	26 13.9	35 18.7	28 15.0	11 5.9	7 3.7	2 1.1	4 2.1	187 100.0
(1)英語					1 3.4			8 27.6	3 10.3	6 20.7	8 27.6	1 3.4	1 3.4	1 3.4			29 100.0
(2)コミュニケーション英語		1 3.8	1 3.8			1 3.8		2 7.7	2 7.7	2 7.7	8 30.8	6 23.1	2 7.7	1 3.8			26 100.0
(3)初修外国語		1 3.3		1 3.3		1 3.3	3 10.0	5 16.7	3 10.0	7 23.3	5 16.7	2 6.7	1 3.3		1 3.3		30 100.0
独語(科目数)				1			3	2	1	1	2						10
仏語(")		1				1				4						1	7
中国語(")								3	2	2	3	2	1				13
(4)保健体育科目								1 4.2		3 12.5	4 16.7	11 45.8	2 8.3	3 12.5			24 100.0
(5)現代の社会と倫理			1 20.0				1 20.0	1 20.0				1 20.0	1 20.0				5 100.0
(6)人間と文化					1 9.1	1 9.1		1 9.1	2 18.2	2 18.2	3 27.3	1 9.1					11 100.0
(7)現代社会の課題					3 37.5			2 25.0	1 12.5	1 12.5		1 12.5					8 100.0
(8)自然と生命	1 11.1			2 22.2		2 22.2	1 11.1	1 11.1	2 22.2								9 100.0
(9)文化・社会系				1 14.3	1 14.3					1 14.3	2 28.6	2 28.6					7 100.0
(10)科学・技術系		1 11.1	1 11.1			2 22.2		2 22.2			1 11.1		1 11.1	1 11.1			9 100.0
(11)生命科学系					1 33.3				1 33.3	1 33.3							3 100.0
(12)複合・学際系							1 20.0	1 20.0	1 20.0			2 40.0					5 100.0
(13)生涯学習系									2 40.0	1 20.0		2 40.0					5 100.0
(14)外国語系									1 20.0		2 40.0		1 20.0	1 20.0			5 100.0
(15)日本語科目															1 20.0	4 80.0	5 100.0
(16)専門基礎科目								3 50.0	1 16.7		1 16.7	1 16.7					6 100.0

「総合満足度」(質問12)の度数分布(該当科目数と割合;平成17年度後期)

(上段:科目数, 下段:割合)

「総合満足度」の 評点	1.8	2.0	2.3	2.4	2.6	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	計
全体	1 0.5	1 0.5	1 0.5	2 1.1	1 0.5	5 2.7	4 2.1	7 3.7	9 4.8	11 5.9	15 8.0	14 7.5	23 12.3	25 13.4	27 14.4	18 9.6	12 6.4	11 5.9	187 100.0
(1)英語						1 3.4		1 3.4	1 3.4	3 10.3	3 10.3	3 10.3	4 13.8	5 17.2	5 17.2	1 3.4	2 6.9		29 100.0
(2)コミュニケーション英語		1 3.8					2 7.7	1 3.8	1 3.8				4 15.4	7 26.9	8 30.8	1 3.8	1 3.8		26 100.0
(3)初修外国語				1 3.3	1 3.3		1 3.3	3 10.0	2 6.7	6 20.0	4 13.3	6 20.0	4 13.3			1 3.3		1 3.3	30 100.0
独語(科目数)							1	1	1	3		2	2						10
仏語(")				1		1				1	2	1							7
中国語(")								2	1	2	2	3	2			1			13
(4)保健体育科目													1 4.2	3 12.5	6 25.0	6 25.0	6 25.0	2 8.3	24 100.0
(5)現代の社会と倫理					1 20.0					1 20.0		1 20.0			1 20.0		1 20.0		5 100.0
(6)人間と文化						2 18.2					1 9.1	4 36.4		2 18.2	1 9.1	1 9.1			11 100.0
(7)現代社会の課題							1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5			1 12.5				8 100.0
(8)自然と生命	1 11.1				2 22.2		1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1								9 100.0
(9)文化・社会系							1 14.3	1 14.3			1 14.3				2 28.6	2 28.6			7 100.0
(10)科学・技術系			1 11.1	1 11.1			1 11.1			1 11.1		1 11.1	1 11.1		1 11.1			2 22.2	9 100.0
(11)生命科学系										1 33.3					1 33.3	1 33.3			3 100.0
(12)複合・学際系									1 20.0		1 20.0	1 20.0	1 20.0		1 20.0				5 100.0
(13)生涯学習系													3 60.0		2 40.0				5 100.0
(14)外国語系		1 20.0										1 20.0				1 20.0	1 20.0	1 20.0	5 100.0
(15)日本語科目																		100.0	5 5
(16)専門基礎科目									1 16.7	2 33.3		1 16.7	1 16.7	1 16.7					6 100.0

第3章 教員によるFD活動レポート

【1】学生による評価と教員の自己評価の比較

「学生による授業評価」の質問項目と「教員のFD活動レポート」の質問項目とは次のように対応している。

学生による授業評価		教員のFD活動レポート	
1	私は75%以上授業に出席した。		
2	私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。		
3	私はこの科目の「達成目標」に到達した。	8	シラバスに掲げた当初の授業目標(ねらい)は達成された。
4	授業はシラバスに沿って行われた。	1	シラバスに沿って授業を行えた。
5	授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。	2	学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。
6	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。	3	話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
7	重要なポイントが明らかで、説明も分かり易かった。	4	重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。
8	学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。	5	学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。
9	授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。	6	授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。
10	クラスサイズ(受講生数)は適切だった。		
11	学習環境は適切だった。		
12	満足できる授業だった。	7	総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

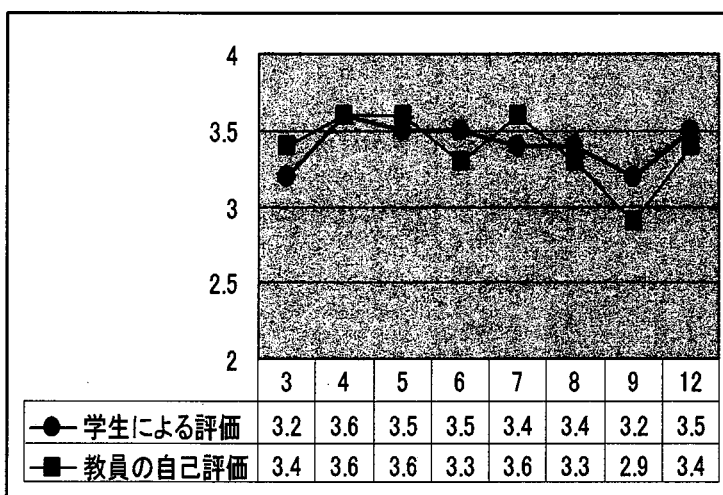
そこで、「学生による授業評価」の質問3、4、5、6、7、8、9、12について「教員のFD活動レポート」の対応項目との全科目平均の比較を行なう。

まず、対応する評価結果を並べると次の表のようになる。

質問項目	3	4	5	6	7	8	9	12
学生による評価	3.2	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.2	3.5
教員の自己評価	3.4	3.6	3.6	3.3	3.6	3.3	2.9	3.4

次にこれをグラフにすると、右の通りである(グラフだけでも独立して観られるよう、重複するが数値や凡例マークも表に加えた)。

グラフからは、学生による評価と教員の自己評価は、前学期と同様、ほぼ対応していることが分かる(数値的には後学期の方が全て上であるが、グラフパターンも前・後学期で殆ど違いはない)。



学生の評価の方が教員の自己評価よりも高い項目は、6(話し方等が適切だった)、8(学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった)、9(予習・復習を課した)、12(満足できる授業だった)であり、逆に、学生の評価の方が低いのは、5(授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった)、7(重要なポイントが明らかだった)である。

尚、開講科目、担当者等が前学期とは完全に同じではなく、授業内容も当然前学期とは違っているので軽々な単純比較は危険だが、参考までに前学期との異同を記しておけば、項目4、5及び8に多少の変化が観られる。つまり、4の「授業はシラバスに沿って行われた」では、教員でそう判断する者が増えて、学生との評価が同程度となり、5の「授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった」では、前学期の同程度の評価から、教員の評価度がやや上回り、8の「学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった」では、前学期に学生・教員共に同程度の評価だったものが、学生がこの項目を評価する度合いが多少上昇した、ということになる。

達成目標への到達度に関して前学期に引き続き学生は採点が辛い。

授業の満足度に関して教員と学生の評価のズレは縮まってきている。

【2】教員のFDレポート

以下に、教員のFDレポートの自由記述を科目群別に紹介する。また、それぞれ「これまでのFD活動」と「今後のFD活動の予定」についても紹介した。以下のとおりである。

【2-1】英語及びコミュニケーション英語	24
【2-2】初修外国語	27
【2-3】健康スポーツ科学	28
【2-4】主題教養科目	29
【2-5】選択教養科目・専門基礎科目	32

【2-1】英語及びコミュニケーション英語

- ・ 授業曜日(カリキュラム上)変更により、思うように進度がいかず、少々焦りを感じる時があった。学生諸君のリスニング力・コミュニケーション力向上のために、もっとゆとりが欲しかった。
- ・ リスニング、コミュニケーション能力向上のために努力したが、時間割変更等によるギリギリの時間数のため、思う程以上の成果・目標向上達成の域に達しなかった。
- ・ 生徒にとって、受け身の授業ではなく積極的に参加する授業を工夫したところは評価できると思う。
- ・ 話し方は適切であったか。全員の関心を掻き立てられたか。一本調子ではないメリハリなどのテクニックを考慮すべきだと反省致しました。
- ・ シラバスで設定した単元区分について、当初の目標と実際のクラス運営との差(学生のレベルのギャップ、理解度等)が出てくる事により、多少ずれが生じたが、学生の理解を深め、徹底させる為には仕方のないことかもしれないと考える。
- ・ 授業内でディスカッションを取り入れてみたが、学生のディスカッションに対する消極性を見抜けず、学生のレディネスを高め切れず(与える資料等を含め)、失敗した。ディスカッションは非常に有益な活動なので工夫して今後は成功させたい。
- ・ 学生の英語力を伸ばすために、いくつかの試みをしたが、学生アンケートの結果をみると、個々の学生によって満足度に差があることがわかった。
- ・ 英語力伸長のために、英文を書き写させる課題や、英文記事要約の宿題を課したが、学生によっては課題が多すぎると答える者がいたり、授業内容が簡単すぎるという者がいたりして、考えさせられた。今後の参考にした。
- ・ 今年ほうまい具合に視聴覚教材付きのテキストを視聴覚教室で使うことができたので、教材プラスパワーポイントの自作教材で授業をした。音読やシャドウイングが効果的に行えたので、来年度以降も視聴覚室が使えるように配慮いただきたい。
- ・ 学習効果をあげるための課題の量の設定に難しさを感じている。試行錯誤を繰り返して適切なバランスを見出していかなければならない。
- ・ グループ活動に課題を取り入れて、インターネットその他の情報源を活用して、情報獲得を試みることをさせてみた。すべての学生が真剣に取り組んだわけではなかった。どう「動機付け」をするかが工夫をしなければならない点であると思う。
- ・ 情報教室を使った活動で関心を高める学生もいるが、利用時間にかなり制限があり、不便な面も多く感じた。統一(推薦)テキストが必ずしも学生の興味にあわないような気がした。
- ・ 情報教室を活用すると関心が高まる学生もいるが、利用時間の制限などで不便も生じた。
- ・ Very enjoyable teaching year. I feel as if I accomplished everything required by this course.
- ・ FD活動は教える側と教わる側のコミュニケーションであり、相方が変化しないコミュニケーションはない。少なくとも教える側は少しずつ変化していることはたしか。さて学

生の方はどうか（これを検証しない限り一方通行になってしまう。）授業は最終回をもって完結するのだから、その途中での「評価」実施は教える側からすれば本意である。試験日に学生にフィードバックする。

- 全体的に内容を詰め込みすぎたようで一部の学生は消化不良だったかもしれない。課題の量も学習効果をあげて力をつけさせるには、必要なものだったが、学生の意識とのズレが大きかったようだ。半期だけだと授業の構成や目標設定が難しいと感じた。
- 大部分の教員は一生懸命工夫して講義していると思う。本当に改善しなければならない講義を行っている一部の教員が、FD活動にほとんど参加しておらず、学生からの声に傾けていないように思う。その点を押さえないと、「いいかげん」な人はいつまでも「いいかげん」で、一生懸命やっているばかりが尻をたたかれているような気がする。その不公平はどうかしてほしい。授業について、集まって知恵を出し合うことは賛成だが、「参観」する必要があるのかどうか？あまり意味があるとは考えない。
- 英語によるコミュニケーション能力を養成するという域にはとうてい達していない。今後さらなる工夫をしていきたい。
- 生徒の英語力のレベル差が大きく、どのレベルに焦点を当てたらよいのか迷った。
- 基礎的文法事項を知らない学生が多くシラバスの目標設定を変更した。
- 予習、復習は大学生としての自覚をうながし、「課す」ことはしなかった。
- 学生の満足感より有用性を重視した。
- 予習は課したが、復習は各自の判断に任せた。
- 笛吹けど踊らず。予習・復習の重要性を毎時間のように説いたにもかかわらず、予習をして授業に臨む者は全体の1/3弱。学生の予習・復習なくして目標達成など、絵に描いた餅に過ぎない。

※ FD活動の記録

- BBC、ABCをよく見、英文を8000ページほど読む。
- 英語運用能力向上のため英語に長時間接する。
- 学生に何回か意見を求めた。
- 中高の英語授業の参観が役に立った。
- FD関連資料の閲覧。
- 語学学習の場合、無意味。
- 学生に授業に関する意見を時々求めた。
- 学生に数回授業に関して意見を聞いた。
- 九州地区大学共通教育研究会発表。

※ 今後のFD活動

- 英語に接する時間を長いものにする。
- BBC、ABC、英米誌新聞の他に英語小説に親しむ。

- 学期中に学生に意見を求めて進度、内容等をチェックする。
- 小中高の教員の研究会に積極的に参加したい。
- 語学学習の場合、無意味。
- 学期中に学生に意見を求める。
- 九州地区大学共通教育研究会発表予定。

【2-2】初修外国語

- ・ 講義で80人のクラスは大きすぎる。
- ・ 知的関心を掻き立てたとは言えると思うが、特に医学部学生の場合は、他の授業に気を取られている感じがし、実際に「内職」をする学生もいて教える方も決して楽しくはないと感じさせられた。いつもベストを尽くしているという自負はあるが、学生があまり乗って来ない現実をどうしたものか、思案中である。
- ・ 後学期の半年間であったが、わかりやすい授業を心掛けたことは、学生にも通じていると感じた。教科書選定は前学期担当の先生にお願いしていたが、各課の内容が盛りだくさんであったために、授業が少しうまく進められなかったことがあったと感じている。「FD活動レポート」については、その使い道が十分に説明されていないと感じている。
- ・ 昨年の学生たちのプーイングに応じて、今年は教材に工夫した結果が学生たちの反応から伺える。この活動の具体的な成果である。授業は最終回をもって完結するのだから、その途中で「評価」実施は教える側からすれば本意である。試験日に学生にフィードバックする。
- ・ シラバスで到達度を明確にしてある授業ではそのスキル達成のためのメソッドを確立する必要があり、有効なメソッドは必ず出来る学生と出来ない学生に分化する。全員が出来たり、満足する授業メソッドはない。あればそれはインチキである。なぜなら語学スキル達成とそれに要する練習をクラス全員が望んでいるわけではないから。
- ・ 今後は黒板の書き方を再度検討していきたい。
- ・ 今後は中国語検定試験（各種試験）なども紹介していき、学生に学習意欲を持たせるようにしていく。

※ FD活動の記録

- ・ 自らの内部でFD活動を行っている。
- ・ 教科書作成
- ・ 日本独文学会主催の教授法セミナー参加
- ・ 九州地区大学共通教育研究会発表

※ 今後のFD活動

- ・ 自らの内部でFD活動を継続する。
- ・ FDに関連する書籍を読む
- ・ 教科書作成
- ・ 日本独文学会主催の教授法セミナー参加

【2-3】健康スポーツ科学

- ・ 自身の専門種目ではないので、いかに授業としてソフトボールに取り組んでもらうかに配慮した。毎回、ゲームを組み立てる係、次時に向けて課題をまとめる係等、知識を持って（調べて）参加できるように工夫した。そうした工夫が評価に表れていると思う。
- ・ 意欲的に授業に取り組んでいる学生とそうでない学生との差が大きい。両者を満足させながら授業目標を達成できる方法をみつきたい。今後の課題である。
- ・ この時間だけというどこか引いた気持ちが自信を持って説明、説得できずに反省しております。
- ・ 前学期履修者、経験者と後学期履修者を分けて行っているが同時に指導するのに苦勞した。
- ・ 学生の満足度は高かったと思う。

※ 今後のFD活動

- ・ 自分の技術レベルの向上

【2-4】主題教養科目

- ・ 評価できる点；学生の一般的音楽観を変えることはできた。反省すべき点；単位の実質化で授業外の課程をどのように出すか今後の課題。“出席と意見・感想”を書かせる独自の“受講表を”通して毎回学生の講義に対する意見には朱で答えているところは、良いところだと自分では思っている。
- ・ 専門授業ではビデオ教材を取り入れて学習効果を高める努力をしているが、共通教育では受講生（工学部生）との心理的距離があるせいか、そのような努力をする意欲がなかなか生じてこない。この点反省したい。混合したクラス編成だと少しは意欲改善につながるかもしれない。
- ・ 非常に良く理解できる学生も多くいるが、反面、全然分からないという学生も中にはいる。留学生（外国人）に「日本の言語」を受けさせるのは無理ではないか。アンケート用紙の上右端を切るなど揃えやすいように工夫してほしい。
- ・ 説明のための図表をパワーポイントで多く示したが、図の見方の説明から始めなければならぬため、つい早口になってしまったと感じている。出席人数と回収した受講カードの枚数が合わないことが多い。原因は、講義のまずさと考えるべきなのだろうか？個々に受講票を持たせ、質問内容から理解度が判断できたのは良かったと思うが、今回はそれに答えるだけに終わってしまった。次回は授業に反映させたい。
- ・ 毎回書かせて頂いているが、「学生による授業評価」調査票のC問10、問11（とりわけ11の「学習環境は適切だった」）を学生による授業評価項目に入れるのは不適切である。今回授業があった202教室は暖房がなく、かつ日当たりの悪い部屋だったため、心身ともこごえる寒さで、案の定、問11に学生は「2」か「1」、自由記述欄にも「部屋が寒い」「暖房を！」との記述ばかりとなった。仮にこの項目を入れるとして、このような記載が多数の場合に、次年度から早急に施設面の改善を図れるのであれば、それはそれで意義深いことであろうが、この項目についてのフィードバックは該当部署へはおそらくされておらず、学生や私たち教員にも、納得のいく説明は、（私が記憶するかぎり）なされていないことからすると、「学生による授業評価」の一環としてではなく、他のしかるべき方法（にわかには思いつきませんが・・・）によるべきだと思う。それにしても、冷暖房が全く入らない部屋で授業を受けさせられる学生、そして、夏は何度か意識が遠のき、目の前が真っ暗になるほど暑く（おそらく熱中症にやられていた）冬は冬で手がかじかんでチョークが持てないほど寒い部屋で授業をする教員（＝私です）がいる状態で「FD活動を推進せよ」と言われても、それ以前の最低限の環境すらないのに、虚しさがつる。両者ともに、「おしん」（死語ですが）のように耐え抜くしかないのでしょうか・・・。
- ・ かがみの文章にかいてあったとおり、全教員がまじめに、この評価を受けるべきだと思います。授業方法の研修も良いけれど、なぜ共通教育が大切なのかの勉強会を全員参加でやるべきだと思います。
- ・ 前学期と比べ出席率が悪いのが気になりました。1年の後半で大学に慣れてきた？せい

か、受講学生の質の問題でしょうか。

- 毎回授業内容に関する質問等を書いた授業カードを提出させている。
- 学生の意欲、知識の多様さのあまり、一斉に授業することは極めて困難である。準備努力が空しく感ずることが多々あった。クラス編成に一考の必要があるのではないか。
- 共通、概論を含めて内容が重複しがちな科目になっている。共通教育を整理すべき。
- 評価できる点はシラバスに沿い、対話を意識して授業したこと。反省すべき点は学生の理解度を確かめながら、授業すること。
- 1. 今年度の授業回数 13回+試験1回
- 2. 今年度特別に行ったこと：○授業時に使うパワーポイントのスライドを分かり易く修正し、また単元によっては新たに作り足した。○板書時、あるいはパワーポイントでの説明文について、項目番号(単元、小単元番号等)を整理しなおした。また、板書についてはできるだけきれいに書くことを心がけた。従来、字が汚いという指摘を学生から受けていたが、今年度は板書に対する不満はほとんどなかった。○授業時間の途中、教室を出たり入ったりする学生が出始めたので、注意をした。その後は、そのような学生は出なくなった。
- 3. 毎年行っていること：○授業の途中あるいは終わり頃に、小紙を配布し、各自の名前(出席チェック用)と授業に対する感想、質問、意見などを書いてもらっている。昨年度に比べ、授業内容理解できたという学生の割合が増えたように思える。いろいろな質問も来るようになった。○その小紙に書かれている学生の感想や意見をほとんどすべて転記した、教師側からの「授業メモ」を次回の授業に配っている。これには、学生が記入して感想、意見、質問をそのまま載せるようにしており、教師による書き換えや選別はしないようにしている。また、質問については、その授業メモの中で答えるようにしている。さらに、前回の授業内容をもう少し詳しく説明して欲しいという意見が出た場合には、その部分を次の授業で再度説明することになっている。
- 4. 来年度の課題：授業内容(レベル)についての再検討。高校の時に生物や化学を履修していない学生の多い工学部学生用の生物学として、相応しい内容にできるだけ変えたい。
- レポート課題、解答の説明について、2回の授業に1回の割で実施している学生の解答を見て驚くのは、指数の計算を全く理解していないことだ。何回か問題を出していれば上達するだろうと考えていたが、進歩は全く見られなかった。この点は大いに反省すべき点である。資料作成には多くの時間を費やした。
- 1クラスの学生数をもう少し減らせないか、そうすればもっと学生に質問できる授業が可能であると思う。
- 機器の使える状態にしておく方が先である。(マイクも使えない時があった。)
- 多人数の学生に予習復習を課すことは無理である。
- 設備の面で、黒板とスクリーンの併用が困難であった。

※ FD 活動の記録

- ・ FD 報告書（JABEE 用）を執筆した。
- ・ 単位の実質化に関する会で発表
- ・ 他大学教員との意見交換
- ・ ボイスレコーダーを用いた話し方研究
- ・ 自己反省
- ・ 講義技法に関する資料や参考書の購入
- ・ 工夫を重ねている

※ 今後の FD 活動

- ・ FD 報告書執筆
- ・ 単位の実質化に関する活動を研究したい。
- ・ ボイスレコーダーを使った授業の録音を続行
- ・ 自己反省
- ・ 内容の改善
- ・ より判り易い授業内容の工夫

【2-5】選択教養科目・専門基礎科目

- ・ 調査や発表という学生にとって能動的な授業形態は多くの学生に受け入れられなかった。一方、最後まで受講した学生の満足度は非常に高かった。
- ・ 今年度開始の共通科目ということで、少々程度が低いところにレベルを合わせてしまったかもしれない。また、教科書も通俗書+ α 程度のものでこのあたりも次回の課題としたい。試験結果、学生からのアンケート結果により次年度のシラバス変更もありうると考えている
- ・ 今年は受講生が少なく、学生に合わせた形で進度が遅れぎみであった。内容的にもう少し例題の改良などに努めたい。
- ・ 受講生は30名位が限度である。個人差があり、個別指導になるため疲れる。課題選択に於いても、個人差があるため難しい。
- ・ 毎日出席カードの意味で、小テストをし、理解度をチェックする。これは学生は評価しているようだが、次の時間に添削して返すのだが、字が読めないと不評のようだ。時間的に難しい。
- ・ 視聴覚設備が不十分で準備が大変だった。(一部で映像が見られない)
- ・ パワーポイント、ビデオ教材等を多く取り入れた。授業外の学習についてももう少し取り入れた方がよいかもしれません。
- ・ 最後に試験をする可能性が高いようなことを数回目に話したところ、自信がないためか当初の受講生数が減ってしまった。本学のこの一般的な学生のモチベーションを上げる方法や共通科目受講の本当のねらい(本意)(つまり確実によい成績で単位を出してくれるような授業をとりたい?)が知りたいところです。
- ・ 学生と講師間の双方向授業が展開されていると思う。反省点としては後学期使用したL-111は後学期授業では使えない。(暖房設備の問題:凍えるくらい寒かった!)ということだった。
- ・ 学期はじめの受講希望者で中途脱落者が増えてきている。教材難易度はあまりかわらないのに脱落者が増える原因がよく分からない。他のクラスで類似現象があるかどうか知りたい。
- ・ 種目が多いのでマネジメントが大変です。T.Tの学生(1人以外はインリダー)がスムーズに指導できるよう教材を毎回準備し、すべての受講生の活動をチェックしましたが、1人で4種目の限界を感じています。
- ・ 一方的な授業になりがちだった。もう少し学生参加型に変えていきたい。
- ・ パワーポイント表示と板書が同時に行えないこと、講義資料、分子模型等、相当重量物を木原から木花へ持参しなければならず大変であった。
- ・ 出来るだけ解り易い授業をとるように講義の準備、ノート等を整理した。今後、講義内容を精選し、時間をとって話をするよう工夫したい。講義におけるプレゼンテーション、資料の活用に工夫を行いたい。
- ・ 学生の意見を受け入れながら授業を進める一方、留学生間の親睦を深めることができる

ような取り組みをした。授業内容は留学生間での日本語習得状況がバラバラであるので、中間的レベルを設定することが難しいと思った。

※ FD 活動の記録

- ・ JABEE 審査員 (オブザーバー)
- ・ 機器、TEXT の選択
- ・ 自己反省
- ・ 学会の教授法ゼミナール参加

※ 今後の FD 活動

- ・ JABEE 審査員 (オブザーバー)
- ・ 教材の執筆
- ・ 教育内容及び方法の研究
- ・ 機器、TEXT の選択
- ・ 自己反省
- ・ 教材や提示方法の改善等
- ・ 学会の教授法ゼミナール参加
- ・ 技術の研修

第4章 科目ごとのデータ一覧

以下に平成17年度後学期のすべての共通教育科目(211科目)のうち「学生による授業評価」が提出された195科目のデータを科目群・系毎に掲載する。ただし、科目名・担当教員名は掲載しない。また、科目の順番は質問12(満足度)への評価の高い順に並べ直してある。

評価は「4:あてはまる。3:ややあてはまる。2:あまりあてはまらない。1:あてはまらない。」の4段階評価である。

また、質問項目は以下の12項目である。

A:回答者(学生)自身について

- 1 私は75%以上授業に出席した。
- 2 私は受講科目に対して真剣な態度で取り組んだ。
- 3 私はこの科目の「達成目標」に到達した。

B:担当教員の教え方について

- 4 授業はシラバスに沿って行われた。
- 5 授業内容は学生の理解度やレベルを踏まえたものだった。
- 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。
- 7 重要ポイントが明らかで、説明も分かり易かった。
- 8 学習意欲や知的好奇心を掻き立てたり満足させる教え方だった。
- 9 授業内容に見合った予習・復習や発展学習を課した。

C:その他

- 10 クラスサイズ(受講生数)は適切だった。
- 11 学習環境は適切だった。

D:総合的な授業評価

- 12 満足できる授業だった。

【1】英語

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.8	3.4	3.9	3.9	3.7	3.6	3.6	3.8	3.9	3.8	3.9
2	3.9	3.6	3.3	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.8	3.9
3	4.0	3.5	3.2	3.8	3.9	3.7	3.6	3.6	2.9	3.7	3.7	3.8
4	4.0	3.8	3.4	3.7	3.8	3.8	3.6	3.8	3.4	3.9	3.5	3.7
5	4.0	3.6	3.2	3.3	3.8	3.6	3.6	3.3	3.3	3.8	3.7	3.7
6	3.9	3.6	3.2	3.5	3.5	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	3.6	3.7
7	4.0	3.4	3.4	3.7	3.8	3.5	3.4	3.4	3.6	3.9	3.7	3.7
8	3.8	3.5	3.2	3.7	3.5	3.6	3.6	3.5	3.1	3.7	3.7	3.7
9	3.9	3.6	3.1	3.6	3.5	3.7	3.5	3.6	3.5	3.7	3.7	3.6
10	3.7	3.4	3.0	3.6	3.7	3.4	3.6	3.4	3.5	3.7	3.6	3.6
11	3.9	3.1	2.7	3.5	3.7	3.4	3.4	3.2	2.5	3.8	3.6	3.6
12	3.9	3.8	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.4	3.8	3.8	3.6
13	4.0	3.9	3.4	3.8	3.6	3.6	3.7	3.5	3.2	3.8	3.8	3.6
14	4.1	3.1	3.0	3.5	3.4	3.7	3.2	3.4	3.3	3.8	3.9	3.5
15	4.0	3.6	3.1	3.8	3.6	3.4	3.6	3.3	3.8	3.8	3.8	3.5
16	3.7	3.3	2.8	3.4	3.2	3.4	3.3	3.3	3.0	3.5	3.6	3.5
17	3.8	3.3	2.9	3.4	3.2	3.3	3.2	3.1	3.5	3.6	3.5	3.5
18	4.0	3.6	2.7	3.5	3.3	3.5	3.3	3.3	3.1	3.6	3.7	3.4
19	3.8	3.5	3.0	3.6	3.5	3.5	3.4	3.2	3.2	3.6	3.4	3.4
20	4.0	3.6	3.1	3.7	3.6	3.5	3.6	3.2	3.3	3.7	3.5	3.4
21	3.8	3.3	2.6	3.7	3.5	3.4	3.4	3.2	3.7	3.8	3.6	3.3
22	3.9	3.0	3.0	3.5	3.5	3.2	3.3	2.8	3.3	3.8	3.7	3.3
23	3.9	3.4	2.9	3.6	3.3	3.5	3.4	3.2	3.2	3.4	3.6	3.3
24	3.9	3.2	2.9	3.5	3.3	3.1	3.0	3.0	3.3	3.7	3.7	3.2
25	3.9	3.2	3.0	3.4	3.2	3.3	3.2	3.2	3.4	3.6	3.4	3.2
26	4.0	3.7	3.1	3.6	3.4	3.1	3.4	3.1	3.6	3.8	3.8	3.2
27	3.8	3.3	3.0	3.5	3.4	3.3	3.2	3.0	3.2	3.6	3.6	3.1
28	3.9	3.2	3.4	3.2	3.2	3.4	3.2	3.4	3.2	3.8	3.5	3.0
29	3.8	3.2	3.0	3.4	2.8	2.6	2.8	3.0	3.2	3.4	3.0	2.8

※未提出の科目はない。

【2】コミュニケーション英語

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.8	3.2	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.9
2	3.9	3.7	3.1	3.6	3.6	3.8	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.8
3	3.9	3.8	3.1	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.3	3.8	3.8	3.7
4	4.0	3.4	3.0	3.8	3.8	3.9	3.9	3.6	3.8	3.9	3.8	3.7
5	3.9	3.7	3.4	3.8	3.8	3.7	3.5	3.8	3.5	4.0	3.8	3.7
6	4.0	3.5	2.9	3.5	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	3.7	3.7
7	3.8	3.2	3.2	3.7	3.6	3.9	3.7	3.5	3.4	3.7	3.7	3.7
8	3.9	3.6	3.3	3.7	3.6	3.6	3.3	3.6	3.4	3.7	3.7	3.7
9	4.0	3.5	3.2	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.9	3.8	3.7
10	3.9	3.6	3.0	3.6	3.6	3.7	3.3	3.6	2.8	3.8	3.6	3.7
11	3.9	3.4	3.1	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.7	3.6
12	4.0	3.6	3.3	3.7	3.7	3.4	3.4	3.6	3.7	2.0	2.4	3.6
13	3.8	3.2	3.1	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4	3.5	3.7	3.5	3.6
14	3.9	3.6	3.1	3.6	3.6	3.3	3.3	3.3	3.2	3.7	3.7	3.6
15	4.0	3.8	3.3	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.8	3.7	3.6
16	4.0	3.7	3.2	3.7	3.6	3.6	3.3	3.4	3.3	3.9	4.0	3.6
17	4.0	3.7	3.2	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.3	3.8	3.6	3.6
18	3.9	3.7	2.9	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.8	3.9	3.9	3.5
19	3.9	3.5	3.0	3.7	3.7	3.7	3.6	3.4	3.6	3.9	3.7	3.5
20	3.9	3.4	2.8	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.6	3.7	3.6	3.5
21	3.8	3.4	3.1	3.6	3.5	3.3	3.3	3.1	3.3	3.5	3.7	3.5
22	3.9	3.3	3.0	3.4	3.3	3.2	3.1	3.0	3.2	3.7	3.4	3.1
23	4.0	3.7	2.7	3.6	3.3	3.3	3.1	2.9	3.3	3.7	3.7	3.0
24	3.9	3.3	2.5	3.2	2.7	2.8	2.6	2.5	2.7	3.7	3.6	2.9
25	3.8	3.2	2.8	3.2	2.9	3.2	2.9	2.6	3.2	3.6	3.6	2.9
26	3.9	3.1	2.6	3.1	2.4	2.3	2.2	2.1	3.0	3.5	3.5	2.3

※2科目が未提出。

【3】初修外国語

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.7	3.6	3.1	3.9	3.9	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	3.8	4.0
2	4.0	3.6	3.2	3.6	3.6	3.6	3.7	3.8	3.7	3.9	3.9	3.8
3	4.0	3.5	3.0	3.8	3.4	3.7	3.7	3.4	3.3	3.5	3.7	3.6
4	3.8	3.6	3.0	3.7	3.7	3.6	3.5	3.4	3.2	3.6	3.8	3.6
5	3.9	3.7	3.0	3.7	3.8	3.8	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.6
6	3.9	3.4	3.1	3.6	3.6	3.6	3.7	3.4	3.2	3.6	3.7	3.6
7	3.9	3.6	3.3	3.6	3.4	3.4	3.1	3.3	3.4	3.5	3.7	3.5
8	3.9	3.6	3.3	3.9	3.3	3.4	3.5	3.3	3.4	3.2	3.6	3.5
9	3.8	3.3	3.0	3.6	3.5	3.4	3.5	3.3	3.1	3.6	3.5	3.5
10	3.9	3.4	3.1	3.7	3.7	3.5	3.7	3.5	3.3	3.7	3.8	3.5
11	3.9	3.5	2.9	3.8	3.6	3.7	3.6	3.2	3.5	3.6	3.5	3.5
12	3.9	3.5	2.9	3.7	3.6	3.2	3.3	3.1	3.5	3.6	3.6	3.5
13	3.9	3.3	2.8	3.6	3.6	3.7	3.7	3.2	2.7	3.5	3.6	3.4
14	3.8	3.2	2.9	3.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6	3.6	3.4
15	3.9	3.5	3.0	3.6	3.5	3.2	3.1	3.1	3.5	3.5	3.4	3.4
16	3.9	3.5	3.0	3.8	3.6	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6	3.6	3.4
17	3.9	3.3	3.0	3.3	3.3	3.2	3.2	3.1	2.8	3.7	3.7	3.3
18	3.8	3.1	3.0	3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	2.9	3.5	3.6	3.3
19	4.0	3.6	3.4	3.3	3.3	2.9	2.9	2.9	3.4	3.6	3.3	3.3
20	3.8	3.3	2.8	3.7	3.4	3.5	3.6	3.2	3.4	3.7	3.6	3.3
21	3.8	3.5	2.9	3.7	3.4	3.5	3.3	3.1	3.5	3.7	3.5	3.3
22	3.8	3.3	3.0	3.5	3.4	2.9	3.2	2.9	3.4	3.5	3.4	3.3
23	3.7	3.6	3.2	3.5	3.1	3.0	3.0	3.2	3.5	3.8	3.7	3.2
24	3.9	3.4	3.0	3.5	3.5	3.1	3.3	2.9	3.3	3.4	3.4	3.2
25	4.0	3.5	3.0	3.3	3.0	3.2	2.9	3.1	3.6	3.8	3.8	3.1
26	3.8	3.5	2.9	3.6	3.3	3.0	2.9	3.0	3.4	3.6	3.5	3.1
27	3.9	3.4	2.8	3.4	3.3	3.4	3.4	3.0	3.4	3.4	3.5	3.1
28	3.9	3.4	3.0	3.5	2.7	2.6	2.6	2.7	3.0	3.5	3.5	3.0
29	3.8	3.0	2.5	3.5	2.9	2.8	2.9	2.8	3.1	3.6	3.5	2.8
30	3.9	3.0	2.2	2.7	2.4	2.4	2.5	2.4	2.7	3.7	3.7	2.4

※7科目が未提出。

【4】健康スポーツ科学

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	4.0	3.6	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	3.2	3.8	3.8	4.0
2	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.7	4.1	3.8	4.0
3	3.9	3.9	3.6	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.3	3.9	3.8	3.9
4	3.9	3.9	3.9	3.7	4.0	3.8	3.6	3.7	3.3	3.9	3.9	3.9
5	4.0	3.9	3.4	3.9	3.8	3.7	3.8	3.6	2.9	3.5	3.8	3.9
6	4.0	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.8	4.0	3.6	3.9	3.9	3.9
7	4.0	3.8	3.6	3.9	3.8	3.5	3.6	3.7	3.2	3.5	3.6	3.9
8	4.0	3.9	3.7	3.9	3.9	3.7	3.7	3.8	3.5	3.9	3.9	3.9
9	3.9	3.7	3.4	3.8	3.9	3.7	3.5	3.7	3.4	3.8	3.7	3.8
10	4.0	3.7	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.7	2.9	3.8	3.6	3.8
11	4.0	3.9	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	2.8	3.5	3.7	3.8
12	3.9	3.8	3.7	3.9	3.8	3.8	3.9	3.7	3.0	3.6	3.6	3.8
13	4.0	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.2	3.7	3.8	3.8
14	4.0	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.3	3.6	3.7	3.8
15	4.0	3.7	3.4	3.8	3.9	4.0	3.7	3.6	3.1	3.9	3.4	3.7
16	4.0	3.7	3.5	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	2.7	3.8	3.8	3.7
17	4.0	3.8	3.4	3.8	3.6	3.5	3.6	3.4	3.1	3.7	3.8	3.7
18	3.9	3.8	3.3	3.8	3.6	3.7	3.7	3.6	2.5	3.6	3.5	3.7
19	3.8	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.6	3.7	3.1	3.6	3.2	3.7
20	4.0	3.8	3.5	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.0	3.7	3.6	3.7
21	4.0	3.9	3.4	3.7	3.7	3.5	3.7	3.7	2.8	3.5	3.0	3.6
22	4.0	3.9	3.6	3.5	3.5	3.3	3.1	3.1	2.9	3.5	3.5	3.6
23	3.9	3.8	3.7	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.4	3.7	3.6	3.6
24	3.9	3.7	3.5	3.6	3.6	3.5	3.4	3.6	3.1	3.7	3.5	3.5

※1 科目が未提出。

【5】主題教養科目(現代の社会と倫理)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.6	3.3	3.7	3.6	3.8	3.7	3.9	3.5	3.7	3.2	3.9
2	3.9	3.8	3.4	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.3	3.6	3.8	3.7
3	3.8	3.3	3.2	3.6	3.3	3.2	3.2	3.2	2.7	3.3	3.4	3.4
4	3.9	3.3	3.1	3.7	3.2	3.3	3.0	3.1	2.8	3.3	3.2	3.2
5	3.8	3.1	2.7	3.5	2.8	2.8	2.8	2.5	2.3	3.2	3.3	2.8

※ 4科目が未提出。

【6】主題教養科目(人間と文化)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.8	3.7	3.0	3.7	3.6	3.8	3.6	3.9	3.3	3.9	3.8	3.9
2	4.0	3.5	3.5	3.7	3.8	3.8	3.5	3.7	3.0	3.3	3.5	3.8
3	3.9	3.6	3.3	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.2	3.6	3.6	3.7
4	3.8	3.5	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6	3.7	3.0	3.5	3.5	3.7
5	3.9	3.5	3.3	3.6	3.4	3.6	3.3	3.4	3.0	3.6	3.2	3.5
6	3.9	3.5	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.6	3.1	3.3	3.5	3.5
7	3.8	3.3	3.4	3.6	3.6	3.6	3.3	3.4	3.0	3.0	3.4	3.5
8	4.0	3.4	3.1	3.7	3.5	3.7	3.5	3.4	3.1	3.7	3.5	3.5
9	3.7	3.3	3.2	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2	2.9	3.6	3.7	3.4
10	3.9	3.2	3.1	3.4	3.1	2.9	2.8	2.7	2.9	3.5	3.5	2.9
11	3.9	3.3	3.2	3.5	3.1	3.0	2.9	2.8	3.0	3.5	3.5	2.9

※未提出の科目はない。

【7】主題教養科目(現代社会の課題)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.6	3.5	3.2	3.8	3.9	3.8	3.9	3.7	2.8	3.6	2.5	3.7
2	3.6	3.3	3.1	3.5	3.5	3.3	3.2	3.5	3.0	3.8	3.8	3.5
3	3.8	3.4	3.1	3.8	3.5	3.6	3.5	3.2	2.8	3.7	3.7	3.4
4	3.9	3.5	3.1	3.5	3.4	3.2	3.2	3.2	3.0	3.5	3.7	3.3
5	3.8	3.3	3.2	3.5	3.4	3.3	3.2	2.9	2.9	3.5	3.5	3.2
6	3.8	3.1	3.0	3.4	3.3	3.0	3.1	3.0	2.7	3.5	3.5	3.2
7	3.8	3.2	3.3	3.4	3.2	3.2	3.0	3.0	2.6	3.5	3.4	3.1
8	3.8	3.3	3.1	3.4	3.3	3.1	2.9	2.9	2.4	2.9	3.2	3.0

※1科目が未提出。

【8】主題教養科目(自然と生命)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.6	3.1	3.4	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.7	3.7	3.4
2	3.9	3.3	3.1	3.5	3.2	3.2	3.2	3.3	2.9	3.4	3.1	3.3
3	3.8	3.4	3.1	3.7	3.4	3.5	3.4	3.2	3.0	3.6	3.3	3.2
4	3.9	3.5	3.2	3.6	3.1	3.3	3.1	3.1	2.8	3.4	3.4	3.1
5	3.9	3.5	3.1	3.4	3.0	3.1	3.0	3.0	2.8	2.6	3.2	3.1
6	3.8	3.2	3.1	3.5	3.2	3.1	2.9	2.8	2.7	3.2	3.5	3.0
7	3.9	3.1	2.7	3.2	2.9	3.1	2.9	2.8	2.3	3.4	3.3	2.8
8	3.7	3.2	2.8	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.6	3.2	3.3	2.8
9	3.9	3.2	2.2	2.7	1.6	2.2	1.8	1.8	2.4	3.2	3.1	1.8

※1科目が未提出。

【9】選択教養科目(文化社会系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.5	3.3	3.7	3.7	3.4	3.7	3.6	2.9	3.9	3.4	3.8
2	3.6	3.8	3.6	3.6	3.8	3.4	3.8	3.8	3.4	3.2	3.1	3.8
3	3.7	3.1	3.0	3.9	3.9	3.7	3.7	3.6	2.7	3.6	4.0	3.7
4	3.8	3.9	3.6	3.7	3.6	3.5	3.5	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7
5	3.8	3.4	3.1	3.6	3.6	3.7	3.5	3.4	2.9	3.3	3.4	3.4
6	3.9	3.3	2.7	3.4	3.2	2.8	2.7	3.0	2.5	3.4	3.6	3.1
7	3.8	3.7	3.4	3.3	3.4	3.0	2.7	2.7	2.0	3.2	3.4	3.0

※4科目が未提出。

【10】選択教養科目(科学技術系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	4.0	3.3	3.5	3.5	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0
2	3.8	3.6	3.5	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.6	3.8	4.0
3	3.9	3.6	3.5	3.6	3.8	3.7	3.8	3.7	2.8	3.8	3.8	3.8
4	3.9	3.0	2.9	3.6	3.4	3.4	3.1	3.2	2.6	3.0	3.6	3.6
5	3.9	3.4	3.2	3.6	3.5	3.1	3.3	3.2	2.5	3.7	3.8	3.5
6	3.4	2.9	2.8	3.4	3.2	3.3	3.1	3.0	2.1	3.3	3.5	3.3
7	3.9	3.2	2.6	3.7	2.8	3.1	2.9	2.5	3.0	3.8	3.7	3.0
8	3.9	2.6	2.1	3.6	2.7	2.9	2.8	2.3	2.1	2.7	3.4	2.6
9	3.8	2.8	2.8	3.3	2.9	2.3	2.2	2.1	2.6	3.3	3.5	2.4

※1科目が未提出。

【11】選択教養科目(生命科学系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.6	3.4	3.1	3.4	3.7	3.3	3.7	3.6	2.5	3.2	3.5	3.8
2	4.0	3.6	3.2	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7	2.5	3.7	3.6	3.7
3	3.7	3.4	2.9	3.4	3.3	3.1	3.0	2.9	2.1	2.4	3.3	3.3

※1科目が未提出。

【12】選択教養科目(複合学際系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	3.5	3.3	3.8	3.6	3.9	3.7	3.8	3.1	3.8	3.8	3.8
2	3.8	3.5	3.2	3.9	3.6	3.8	3.8	3.5	3.3	3.8	3.6	3.6
3	4.0	3.3	3.2	3.7	3.4	3.5	3.3	3.3	2.6	3.6	3.8	3.5
4	3.9	3.5	3.2	3.7	3.8	3.5	3.6	3.5	2.5	3.6	3.6	3.4
5	3.8	3.1	3.1	3.5	3.5	3.2	3.2	3.0	2.5	3.2	3.2	3.2

※未提出の科目はない。

【13】選択教養科目(生涯学習系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.9	3.8	3.7	3.9	3.7	3.9	3.8	3.5	3.9	3.9	3.8
2	3.8	3.2	3.1	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	2.9	3.3	3.4	3.8
3	3.9	3.5	3.4	3.8	3.6	3.5	3.3	3.5	2.7	3.8	3.6	3.6
4	4.0	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.7	3.8	3.3	3.7	3.7	3.6
5	3.9	3.5	3.4	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.2	3.6	3.4	3.6

※未提出の科目はない。

【14】選択教養科目(外国語系)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	4.0	3.7	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.8	3.8	3.7	4.0
2	3.9	3.6	3.4	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.3	3.8	3.8	3.9
3	3.9	3.7	3.6	3.8	3.8	3.5	3.5	3.5	2.9	3.7	3.8	3.8
4	4.0	3.3	3.4	2.9	3.6	3.6	3.3	3.4	3.2	3.6	3.7	3.4
5	4.0	3.5	3.0	3.5	4.0	3.5	4.0	3.0	3.5	2.5	3.5	2.0

※2科目が未提出。

【15】選択教養科目(日本語科目)

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
2	4.0	3.5	4.0	4.0	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
3	4.0	4.0	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
4	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0

※未提出の科目はない。

【16】専門基礎科目

No.	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4	質問 5	質問 6	質問 7	質問 8	質問 9	質問 10	質問 11	質問 12
1	3.9	3.7	3.3	3.7	3.5	3.5	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7
2	4.0	3.7	3.3	3.8	3.4	3.5	3.5	3.4	3.7	3.8	3.8	3.6
3	4.0	3.5	3.5	3.8	3.3	3.0	3.0	3.3	2.8	3.8	3.8	3.5
4	3.8	3.1	2.9	3.6	3.2	3.4	3.4	3.0	3.2	3.5	3.6	3.3
5	3.9	3.3	3.1	3.6	3.2	3.4	3.0	3.1	3.3	3.6	3.5	3.3
6	3.9	3.2	3.0	3.5	3.1	3.3	3.2	3.1	3.2	3.6	3.7	3.2

※未提出の科目はない。

第5章 本調査の今後の課題

本報告書のデータによれば、共通教育への学生の評価はこの2年半の間に上がって来ていることは間違いない。特に17年度以降の3学期分に関しては緩やかながら上昇傾向にある。これは、第一に、各教員の取り組みの成果であるが、第二に、本調査を初めとするFD活動が次第に当然のこととして定着してきていることの成果でもあろう。

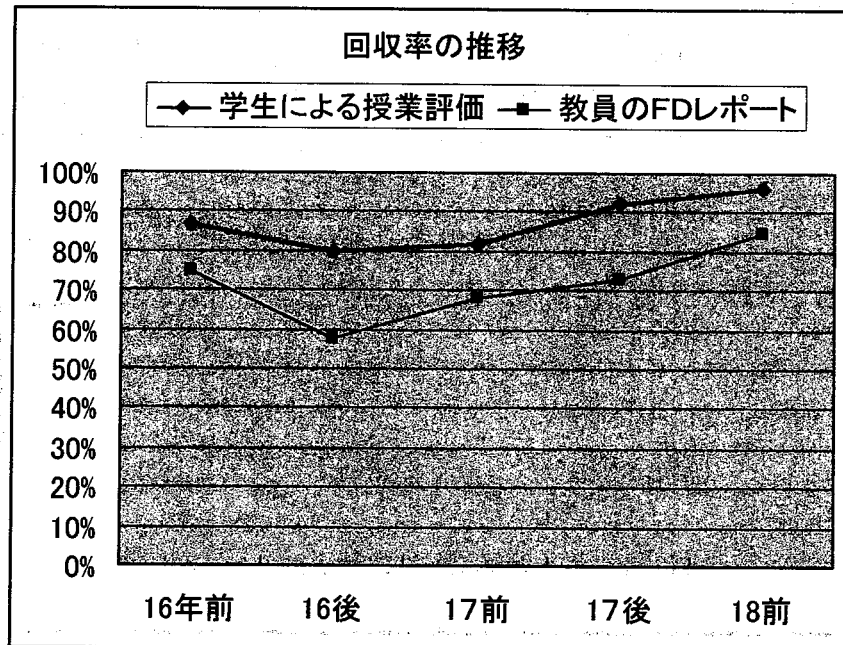
本調査の一層の改善のために、引き続き次の2点が今後の課題としてあげられるであろう。

(1)回収率の向上

第一の課題は、更なる回収率の向上を目指すことである。次回報告予定の18年度前学期分まで過去2年半の回収率を表にすると以下の通りである。

	学生による授業評価	教員のFDレポート
平成16年度前学期	87%	75%
平成16年度後学期	80%	58%
平成17年度前学期	82%	68%
平成17年度後学期	92%	73%
平成18年度前学期	96%	85%

また、これをグラフで表すと次のようになる。



全科目対象の調査を始めた16年度前学期に高い回収率を示した後、次の16年度後学期に減

少し、その後、少しずつ回収率は上昇している。しかし、回収率の一層の上昇をもたらすには、何らかの手だてが必要であろう。例えば、いきなり担当者名を明らかにした全ての内容を含む結果を公表するというのではなく、段階的な評価結果の公開を目指すということ、更には広い意味でのインセンティブの導入等が考えられるであろうか。評価結果の公開という手段は「両刃の剣」的要素を含んでおり、構成員間で十分議論を尽くし、大方の納得を得た上で導入するのが望ましいであろうが、何れにしても前向きの議論がなされるべき時に来ているのかも知れない。

(2) 調査結果の活用

回収率を向上させるためにも、調査が日常化してしまっ、「取るだけ・報告書を纏めるだけ」で終わってしまうことは本来望ましいことではない。外部から云われて仕方なくやる授業評価ではなく、本来この調査は、それに基づいた共通教養教育の改善に資するというのが大目的である筈で、未だそこに至っていないことには幾つかの本学に固有の複合的要因が介在しているのであるが、教育は先ずそれを施される対象である学生のためにあるべきものであり、その学生達が与えられたメニューそのものに対して不満や要求を持っていることへの対処もさることながら、今ある枠組みの中での共通教養教育に対しても必ずしも満腔の賛意を表している訳ではなく、改善を求めているのは間違いのない事実であろうから、授業担当者としての各教員やその属している部会、共通教育部等において、更なるプログラムの改善・改革が図られなければなるまい。例えば、第二期の大学法人としての「中期目標・中期計画」を睨んでの、近い将来における共通教育全体のカリキュラムの見直し・改革を議論する際にも、当然、これまで及び今後の「学生による授業評価」および「教員のFD活動レポート」等の結果が考慮されなければならない。それによって、本調査を継続してゆくことが、学生や教員・大学にとって一層有益なものとなるであろうし、結果的に各種の外部評価等に実質を伴った形で十分に対応してゆくことが出来るであろう。「学士一貫教育」という本来の視点から観るならば、共通教養教育は専門教育の下請けではなく、それ独自の理念と目的を持った大学教育における必須の一大要素であり、大学教育が単なる職業教育とは違った人間教育たり得るのは、共通教養教育あればこそ、とも云い得るのである。

今後の課題

- (1) 授業評価・FDレポートの回収率を更に上げる。
- (2) 調査結果を共通教育の実質的な改善に繋げる。

共通教育部自己点検・評価委員会委員

(平成17年度)

- 荒木賢二(医学部)
 - 伊佐敷隆弘(教育文化学部)★
 - 石川千佳子(教育文化学部)
 - 板井孝一郎(医学部)
 - 甲斐重貴(農学部)
 - 海津浩一(工学部)
 - 加藤貴彦(医学部)
 - ◎西森利数(医学部)
 - 根本清次(医学部)
 - 武方壮一(大学教育研究企画センター)
 - 玉江和義(教育文化学部)
 - 南太一郎(教育文化学部)
 - 山下研介(農学部;共通教育部長)
- (◎は委員長 ○は副委員長)
- (★は17年度前学期までの報告書編集主幹)

(平成18年度)

- 足立勝(農学部)
 - 井上修一(教育文化学部)★
 - ◎甲斐重貴(農学部)
 - 加藤貴彦(医学部)
 - 川村修(農学部)★
 - 武方壮一(大学教育研究企画センター)
 - 玉江和義(教育文化学部)
 - 西脇亜也(農学部)
 - 廿日出勇(工学部)
 - 松尾雄二(教育文化学部)
 - 南太一郎(教育文化学部)★
 - 村岡嗣文(教育文化学部;共通教育部長)
 - 山本直之(農学部)★
 - 湯井敏文(工学部)
- (◎は委員長 ○は副委員長)
- (★は17年度後学期報告書作成WG)

*尚、両年度共、授業評価に係る作業データの処理等には、大教センター 武方委員に多大な尽力を賜った。特記して謝意を表する。

